

令和3年2月 青葉区議員団会議

次 第

日時：令和3年2月5日（金）14時～
（WEB会議）

議長 行田朝仁議員

報告事項

- 1 藤が丘駅前地区再整備基本計画の策定について
(都市整備局市街地整備推進課 資料1)
- 2 バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業について
(道路局企画課 資料2)
- 3 新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の状況について
(福祉保健課 資料3)
- 4 令和3年度青葉区内における主な局予算事業について
(区政推進課 資料4)

配付資料

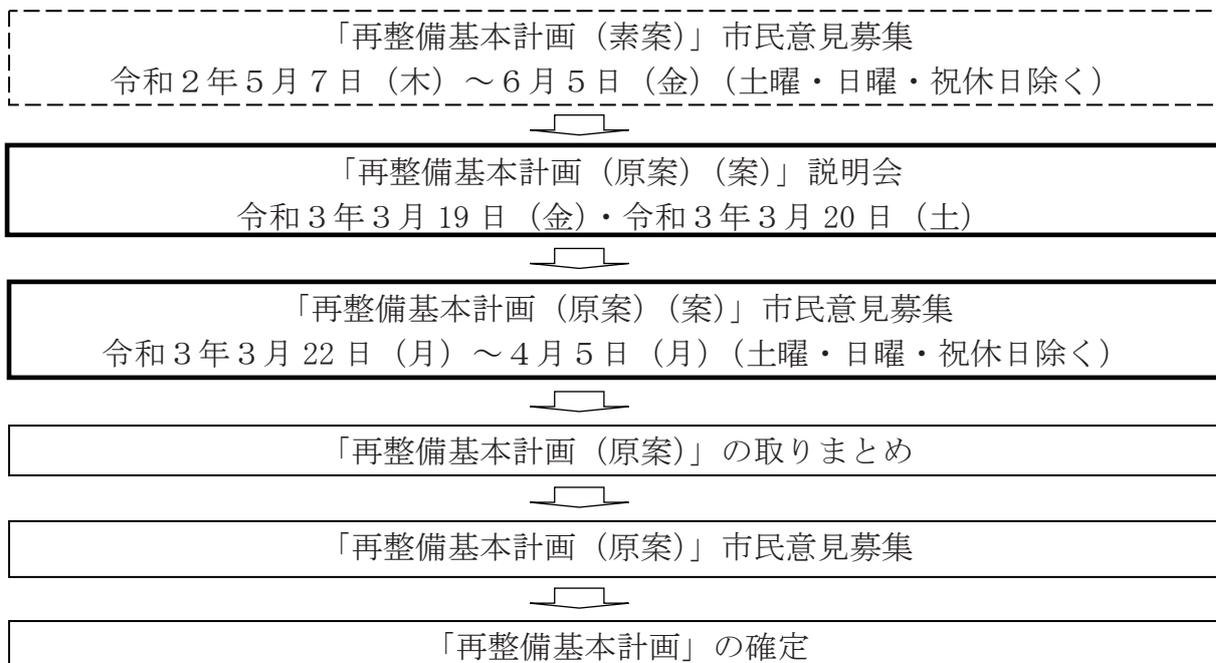
- ・第4期青葉区地域福祉保健計画（素案）について（福祉保健課 配付資料1）
- ・都市計画道路 恩田元石川線（鉄地区）について（道路局企画課 配付資料2）
- ・青葉区火災・救急状況（令和3年1月26日現在）（青葉消防署庶務課 配付資料3）

藤が丘駅前地区再整備基本計画の策定について

「藤が丘駅前地区再整備基本計画」は、藤が丘駅北側の区域（「検討対象範囲」。下図参照）について、上位計画である都市計画マスタープラン青葉区プラン「青葉区まちづくり指針」や田園都市線駅周辺のまちづくりプランを受け、再整備の考え方など、新たなまちづくりに取り組むための方針等を示すものです。これまでに横浜市、東急株式会社、学校法人昭和大学の三者共同でワークショップ等を開催し、地域の皆さまからご意見等をいただきながら本計画の作成を進めています。

令和2年5月に「再整備基本計画（素案）」として取りまとめ、市民意見募集を実施しましたが、頂いたご意見などを踏まえて、改めて「再整備基本計画（原案）（案）」の説明会を開催し、再び市民意見募集を実施して、令和3年度に「再整備基本計画」を確定させる予定です。

【進め方（予定）】



【検討対象範囲】



新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組に伴い、説明会が中止になる場合があります。

開催については、事前にお問合せ又は横浜市ホームページでご確認ください。

（電話 671-3519、Fax664-7694）

<藤が丘駅前地区再整備基本計画（素案）の整備イメージ>



にぎわい・交流施設のイメージ



にぎわい軸沿道は、ゆとりのあるオープンスペースと一体的に賑わいを創出する飲食店などを配置し、日常的に人々が憩える機能を配置



・公園に面する場所には、子供からお年寄りまでが集う、健康増進やコミュニティの形成に資する機能を配置
・公園・広場の地形に呼応した施設の配置により、建物屋上との一体的なオープンスペースの活用も想定



※使用している写真はあくまでイメージです。

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業 (青葉台駅周辺への連節バス導入及びバス路線再編について)

1 バス事業の現状と課題について

人口減少や超高齢社会の到来など社会情勢が変化の中で、市民に身近な路線バスの役割はますます大きくなっています。しかし、バス事業は利用者の減少や乗務員不足の影響により、路線の維持が厳しい状況となっています。(図1、2参照) 今後はバス路線の維持・充実に向けて、少ない人手で担うことができる効率的な路線網を構築させていく必要があります。



図1: 横浜市内の1日あたりバス乗車人員の推移

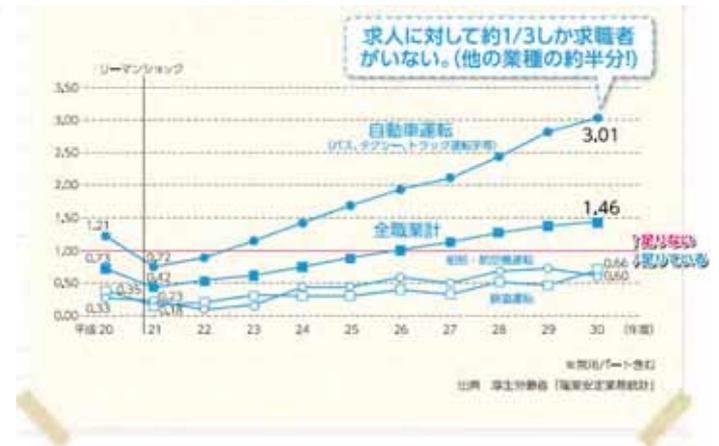


図2: 国内の有効求人倍率の推移

2 青葉区の現状と課題について

青葉区は東西方向に走る鉄道を骨格とし、各駅を起発着する路線バスが地域の交通ネットワークを形成しています。しかし、各バス事業者は厳しい経営環境の中、全市的に路線の減便等を実施しており、青葉区においても利用実態に応じたダイヤ調整を実施しています。(図3参照。)中でも、奈良地区など区北西部は路線バスが重要な移動手段となっていますが、他地区と比較して、長距離路線が多い事から運行効率が悪く、今後さらなる路線の廃止や大幅な減便による、日常生活の移動に支障が生じることが危惧されます。



図3: 青葉区内での減便状況について (令和3年1月時点)

3 取組の概要

青葉区北西部のバス路線の課題に対応するため、まず、地区内の高頻度、高需要の青61系統（青葉台駅～日体大）に大型バスの約2倍の定員となる連節バスを導入することで、サービス水準を維持しつつ車両を減らし、運行の効率化を図ります。併せて、周辺路線を含めて再編を実施し、それらにより生じた経営資源の再配分により、面的なバス路線の維持・充実を図ります。

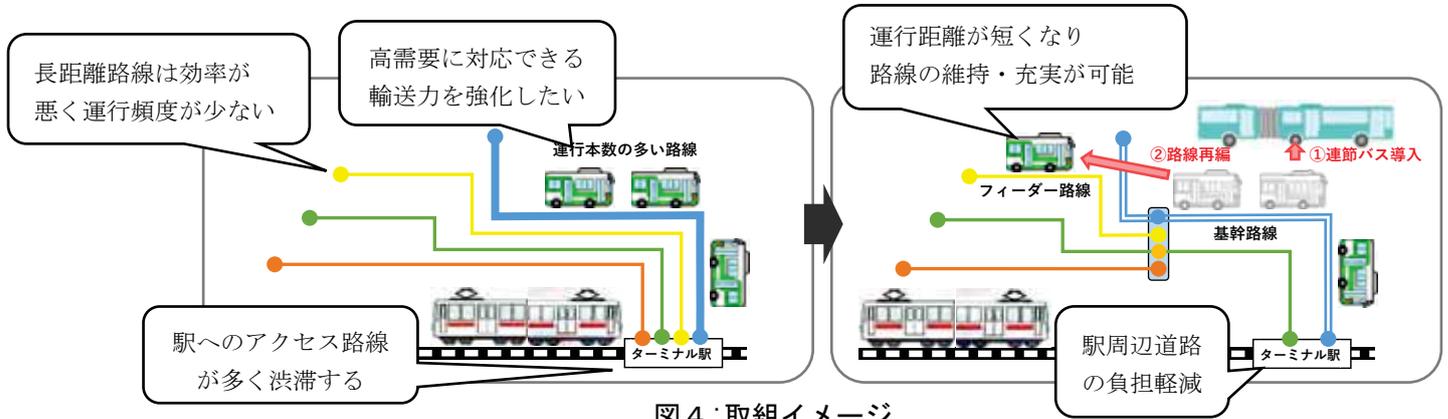


図4：取組イメージ



図5：青葉台駅北西部バス路線（川崎市発着路線を除く）

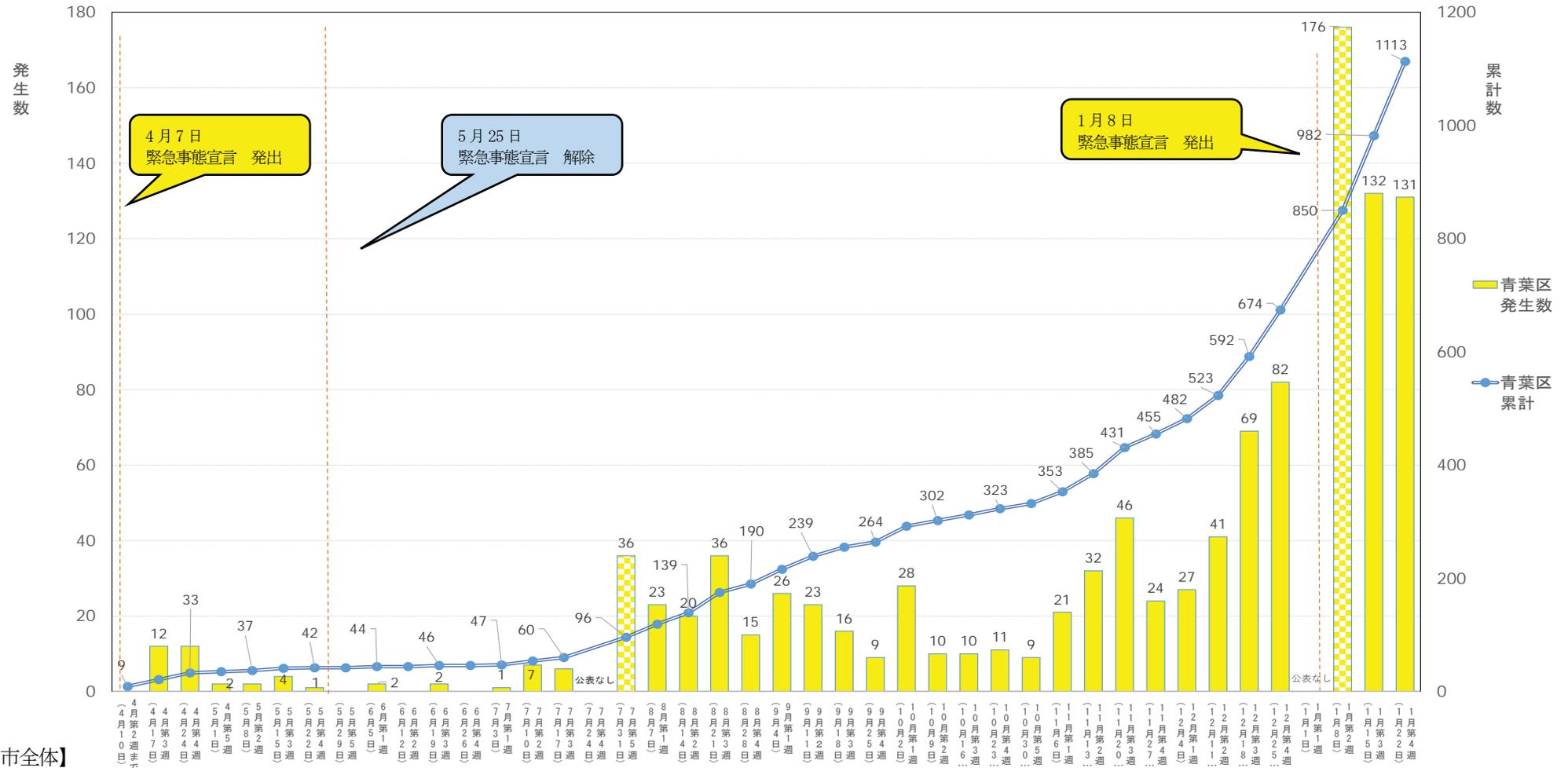
4 今後の予定（令和3年度）

- ①地域・関係者（道路管理者・交通管理者等）協議
- ②整備箇所の調査・測量・設計

3 新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の状況について

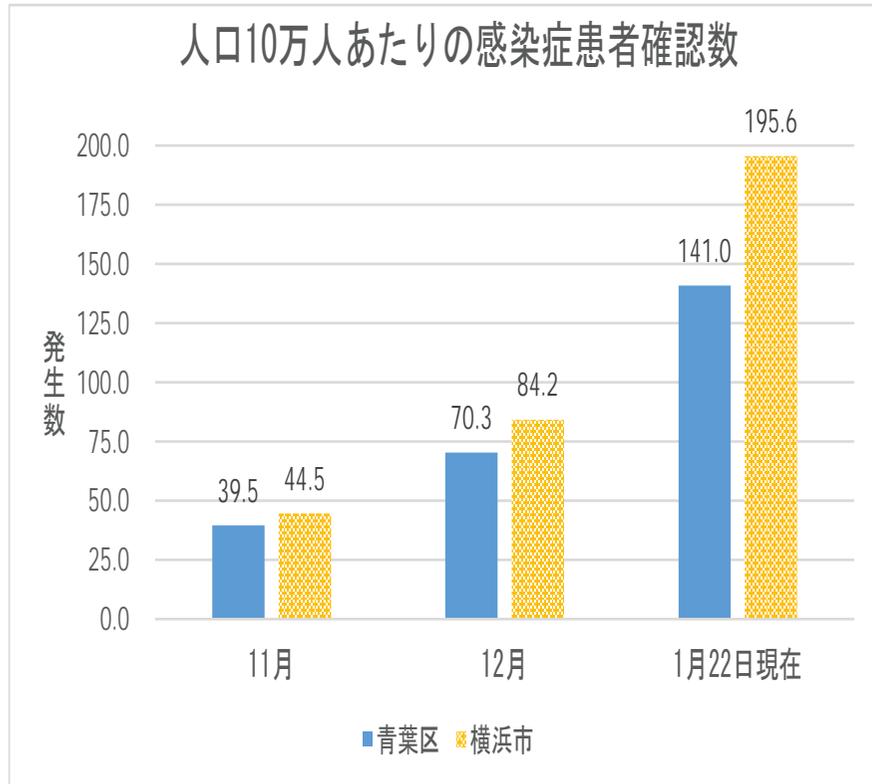
(1) 青葉区内の感染状況（患者確認数推移）

感染症患者確認数



累計	120	224	301	373	427	492	526	541	556	560	566	575	628	684	771	1,027	1,256	1,501	1,753	1,967	2,266	2,596	2,806	2,980	3,212	3,383	3,577	3,728	3,906	4,174	4,583	5,134	5,578	6,180	6,801	7,645	8,742	11,330	13,813	16,092
発生数	104	77	72	54	65	34	15	4	6	9	53	56	87	256	229	245	252	214	299	330	210	174	232	171	194	151	178	268	409	551	444	602	621	844	1,097	2,588	2,483	2,279		

(2) 青葉区内の感染状況（人口10万人あたりの患者確認数） (3) 青葉区庁内体制（現時点）



※横浜市人口ニュース（令和2年9月1日現在）のデータで計算

・平日の体制
(保健師)

福祉保健課健康づくり係 4名

高齢・障害支援課、こども家庭支援課、福祉保健課事業企画
各日2名応援（状況に応じて増員）

会計年度任用職員（看護職）各日3名

(事務応援)

総務課危機管理担当係長1名（健康づくり係専任）

福祉保健センター各課係長各日1名（5名で交替）

生活支援課係長 各日1名（15時から17時）

総務部・福祉保健センター係長、職員各日2名（13名で交替）

会計年度任用職員 1名

福祉保健課運営企画係、事業企画担当 各日1名

・休庁日の体制

(保健師)

福祉保健課健康づくり係 1~2名

高齢・障害支援課、こども家庭支援課、福祉保健課事業企画担当
2名以上が応援 ※状況に応じて増員

(事務応援)

福祉保健課責任職 1名

福祉保健センター各課係長 1名（日曜日・祝日）

福祉保健課運営企画係・事業企画担当職員 1名（土曜日）

※2月より、看護職及び事務職各1名増員（人材派遣）

令和3年度 青葉区内における 主な局予算事業



青葉区

目 次

国際局	P.1
市民局	P.1
文化観光局	P.2
経済局	P.2
こども青少年局	P.3
健康福祉局	P.3
環境創造局	P.4
資源循環局	P.5
建築局	P.6
都市整備局	P.6
道路局	P.7
交通局	P.8
教育委員会事務局	P.8

この資料は、各局の予算概要から、青葉区内で実施が予定されている主な事業を抽出したものです。
内容は青葉区関連部分を中心に記載しています。

国際局（政策総務課:671-4700）

2事業

番号	事業名	内容	予算額
1	外国人材受入・共生推進事業	横浜市多文化共生総合相談センター及びよこはま日本語学習支援センターの円滑な運営を進めるとともに、国際交流ラウンジの運営支援を通じて、在住外国人の安心・安全な生活の確保を進めます。	705 千円
2	外国人相談対応強化事業	新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、在住外国人への情報提供・相談対応等を強化するため、区・国際交流ラウンジ・横浜市国際交流協会における、ICT機器を活用した通訳・翻訳対応及び事業のリモート化支援等を行います。	609 千円

市民局（総務課調整係:671-2315）

4事業

番号	事業名	内容	予算額
1	学校施設への夜間照明設置事業	市内小中学校の校庭に夜間照明を設置し、夜間の校庭を開放することで、スポーツをする場を拡充し、地域でスポーツを気軽に親しむ機会を創出します。 モデル校：鉄小学校（工事・供用開始）	50,620 千円 ※全市分の予算額
2	市民利用施設等の特定天井脱落対策・体育室空調機設置	大規模空間を有する既存建築物の天井の脱落対策を行います。 ・青葉スポーツセンター、青葉公会堂、大場みすずが丘地区センター 体育室に空調機を設置していないスポーツセンター及び地区センター等に空調機を順次設置します。 ・青葉スポーツセンター	320,173 千円 ※全市分の予算額
3	区庁舎設備等改修事業	区庁舎、公会堂、土木事務所の利便性の向上、環境改善等を行います。 （区提案反映制度：大規模な風水害時における青葉区庁舎及び青葉土木事務所の電源保全）	5,000 千円
4	子どもの遊び場等遊具保全事業	青葉区北西線高架下を活用したスポーツ施設の整備を行います。	132,000 千円

文化観光局 (総務課経理係:671-4081)

1事業

1	文化施設運営事業	区民文化センターのホールの天井耐震化に向けて、青葉区等で設計を行います。	3,037,820 千円 ※全市分の予算額

経済局 (総務課調整係:671-2582)

1事業

1	郊外部における働く場の創出事業	郊外部における働く場の創出に向け、民間事業者が青葉区及び栄区に設置する地域に密着したオフィスのモデル事業について、効果検証を行います。 実施場所：青葉台	2,000 千円 ※全市分の予算額

こども青少年局 (総務課経理係:671-4266)

4事業

1	保育所等における業務効率化推進事業	<p>新型コロナウイルスの感染防止対策を行いながら保育の提供を行う保育所等に対し、保育士の業務負担軽減を図るため、ICT等を活用した業務システムや翻訳機等の導入にかかる経費を補助します。</p> <p>(区提案反映制度：発災時の市立保育所在園児・保護者との連絡手段の確立と、業務改善)</p>	<p>322,350 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
2	保育・教育施設との情報受伝達方法の改善	<p>保育・教育施設における風水害や感染症対策等、迅速で効率的な情報伝達のためのポータルサイトの新設に向けたモデル事業を実施します。</p> <p>(区提案反映制度：発災時の市立保育所在園児・保護者との連絡手段の確立と、業務改善)</p>	<p>5,190 千円</p>
3	保育ニーズの高い1歳児の受入枠拡大	<p>既存施設で、保育ニーズが高い1歳児の受入枠を拡大するため定員変更を行う場合の補助等を拡充します。</p> <p>(区提案反映制度：認可保育所等における1歳児受入れ枠の拡大及び定員割れ対策の推進)</p>	<p>147,950 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
4	青少年を育む地域の環境づくり	<p>中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行う、青少年の地域活動拠点を7か所(青葉区内1か所)で実施します。</p>	<p>172,700 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>

健康福祉局 (総務課経理係:671-2382)

1事業

1	特別養護老人ホーム整備事業	<p>介護需要の増大に対応するため、特別養護老人ホームの施設整備に対する助成を行います。地域密着型(サテライト型含む)の整備助成を増額し広域型と同額にすることで、整備促進を図ります。</p> <p>施設名(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレシヤス横浜(元石川町) ・しょうじゅの里三保サテライト荏田(荏田北) 	<p>4,618,320 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
---	---------------	---	-------------------------------------

1	ハマッコトイレ (災害時下水直結式仮設トイレ)の整備/ 地域防災拠点等の流末下水道の耐震化	<p>地域防災拠点や応急復旧活動拠点(市区庁舎)に整備するハマッコトイレについて、令和5年度の整備完了を目指し、土木事務所と連携して整備を進めます。また、災害時にそのトイレが使用できるように、その排水が流入する下水道管の耐震化性能を検証し、必要な耐震化を進めます。</p> <p>ハマッコトイレ整備：7校予定(奈良小、鴨志田第一小、山内小、新石川小、恩田小、鉄小、元石川小)</p>	<p>ハマッコトイレ整備 78,500 千円</p> <p>下水道管耐震化 405,000 千円</p>
2	雨水幹線等の整備	<p>郊外部を含めた市域全域で、過去に浸水被害を受けた地区を優先して、地域の雨水排水の骨格となる雨水幹線や雨水を貯留する調整池等の整備を推進します。</p> <p>・恩田川左岸雨水幹線</p>	946,054 千円
3	街路樹による良好な景観の創出、育成	<p>地域で愛される並木の再生や空き桧の補植など、街路樹による良好な景観づくりを推進します。</p>	<p>582,000 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
4	生産環境の整備と支援事業(ふるさと村運営事業)	<p>農業生産性の向上と農の持つ多面的機能が発揮される良好な都市農業を推進するため、農業の基盤整備の支援やふるさと村等の市民の皆様が自然に親しむ機会の創出を進めます。</p>	10,677 千円
5	公園整備事業(新設整備事業)	<p>地域のニーズを反映した身近な公園の新設整備を行います。</p> <p>・谷本公園(地区) (区提案反映制度：谷本公園北側エリアの整備促進)</p>	<p>514,378 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
6	公園整備事業(再整備・改良事業)	<p>公園を安全で快適にできるように、再整備や施設改良を行います。</p> <p>・奈良山公園、もえぎ野公園、稻荷前第四公園 等</p>	<p>3,008,012 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>

7	樹林地の確実な保全の推進	<p>緑地保全制度の地区指定を積極的に進めるとともに、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に対応します。</p> <p>・寺家町居谷戸特別緑地保全地区 (区提案反映制度：良好な緑の保全と恩田市民の森の早期開園)</p>	<p>3,317,793 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
8	市民が農を楽しむ支援する取組の推進	<p>「横浜ふるさと村」や「恵みの里」での農業教室等の開催等の取組を推進します。</p>	<p>23,850 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
9	身近に農を感じる地産地消の推進事業	<p>情報誌などの制作・発行や地産地消に関する区局等での取組支援、横浜の農をPRするイベントの実施など、市民が地産地消を身近に感じられる取組を推進します。</p>	<p>600 千円</p>
10	地域に根差した緑や花の楽しみづくり	<p>緑や花に親しむ市民の盛り上がりを醸成していくため、地域をはじめとする多様な主体と連携した緑や花に関するイベントの開催や、緑や花を育む活動の支援など、地域に根差した各区での取組や公園等での地域の花いっぱいにつながる取組を推進します。 青葉区では、「ガーデンシティ横浜」推進の一環として、「フラワーダイアログあおば」事業を引き続き実施します。</p>	<p>5,000 千円</p>

資源循環局 (総務課経理係:671-2538)

1事業

1	災害対策用トイレ整備事業	<p>トイレパックの備蓄など、家庭での取組について啓発を強化します。地域防災拠点等に災害時下水直結式仮設トイレ（ハマッコトイレ）の整備を進めます。</p> <p>ハマッコトイレ整備：7校予定（奈良小、鴨志田第一小、山内小、新石川小、恩田小、鉄小、元石川小）</p>	<p>61,813 千円</p>
---	--------------	--	------------------

建築局 (総務課庶務係:671-2920)

1事業

1	持続可能な住宅地推進プロジェクト(SDGs未来都市・横浜)	<p>「次世代郊外まちづくり基本構想 2013」(H25年度策定)に基づき、歩いて暮らせる範囲に就労や子育て、交流など生活に必要な機能や拠点を配置し、それらを連携させるコミュニティ・リビングや、郊外住宅地におけるエリアマネジメントの取組を進めます。</p> <p>・東急田園都市線沿線地域</p>	<p>13,500 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>

都市整備局 (総務課経理係:671-2689)

2事業

1	拠点整備促進事業	<p>駅前広場など都市基盤施設の整備や密集市街地の機能更新等が必要な駅周辺において、防災性や利便性の向上などを目指したまちづくりを進めます。</p> <p>市街地開発事業検討地区：藤が丘駅前地区</p>	<p>67,005 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>
2	鉄道計画検討調査費	<p>高速鉄道3号線の延伸(あざみ野~新百合ヶ丘間)について、事業主体である交通局が進める調査・設計作業と連携して関係者との協議・調整を進め、早期の事業着手を目指します。</p>	<p>23,000 千円</p> <p>※全市分の予算額</p>

1	都市計画道路等の整備	<p>市域の一体性を高めながら都市機能の強化を図るため、都市計画道路等の整備を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎町田線 <p>事業化に向けた、測量・設計等を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩田元石川線【元石川地区、鉄地区】 	<p>6,734,160 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
2	無電柱化推進事業	<p>災害時の救急活動や応急復旧を速やかに展開できるよう、第1次緊急輸送路等、災害時に拠点として機能する区役所等へのアクセス路について、無電柱化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜上麻生線 	<p>904,550 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
3	施設の老朽化対策	<p>「横浜市公共施設管理基本方針」に基づき、各施設の長寿命化を図る保全計画等を策定し、メンテナンスサイクルにより効率的かつ効果的な維持管理・更新等を進めます。</p> <p>歩道橋の老朽化対策：美しが丘第5歩道橋 河川施設等の老朽化対策：奈良川</p>	<p>4,818,510 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
4	街路樹の更新等	<p>安全な通行に支障がある街路樹について、管理しやすい樹種への変更や適切な間隔での樹木の配置、植樹柵の改良などを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまプラーザ、あざみ野 	<p>196,820 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
5	河道等安全確保対策事業	<p>河川や水路、雨水調整池などの土砂掘削や樹木伐採、除草等を実施し、雨水を流す機能や貯める機能を確保するとともに、良好な水辺環境を維持していきます。</p>	<p>429,000 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
6	通学路等安全対策事業	<p>令和元年5月に滋賀県大津市で発生した事故を受け、未就学児の移動経路等の緊急交通安全対策を推進します。また、スクールゾーン対策協議会での点検などを踏まえ、引き続き、歩行空間の確保やあんしんカラーベルトの整備など通学路の安全対策を重点的に進めます。</p>	<p>3,131,530 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>
7	バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業	<p>既存バス路線の維持や多様化するニーズ、交通渋滞などの課題に対応するため、連節バス導入など、運行効率化を促すための走行環境整備を進めます。</p> <p>検討地区：青葉台駅周辺地区</p>	<p>45,070 千円</p> <p>※全市分の 予算額</p>

交通局 (総務課庶務係:671-3147)**1事業**

1	高速鉄道3号線延伸事業の推進	高速鉄道3号線の延伸(あざみ野~新百合ヶ丘)について、関係機関との協議・調整、行政手続を引き続き進めるとともに、これに必要な調査・設計の深度化を図り、早期の事業着手を目指します。	165,660 千円

教育委員会事務局 (総務課経理係:671-3280)**1事業**

1	小・中学校施設の建替事業	平成30年度に建替校に選定した榎が丘小学校については実施設計等、令和2年度に選定したつつじが丘小学校については基本設計等を進めます。	2,708,730 千円 ※全市分の 予算額

第4期青葉かがやく生き生きプラン（青葉区地域福祉保健計画）（素案）について

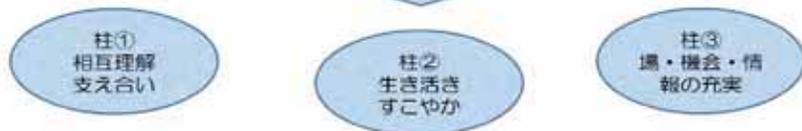
1 地域福祉保健計画について

地域福祉保健計画とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざし、住民、事業者、公的機関が地域の課題解決に協働して取り組み、「頼み、頼まれる」身近な支えあいの仕組みづくりを進めることを目的として、策定・推進する計画です。

第4期計画（計画期間：令和3年度～7年度）策定にあたり、各種インタビュー・アンケート等から出された課題・ニーズを基に、「地域福祉保健計画策定委員会」にて、第3期計画の振り返りや、第4期計画に向けた課題等の整理を行いました。今後、区民意見募集の結果などを踏まえ、「地域福祉保健計画策定委員会」、「地域福祉保健推進会議」において、計画案を検討・確認し、第4期計画を策定します。

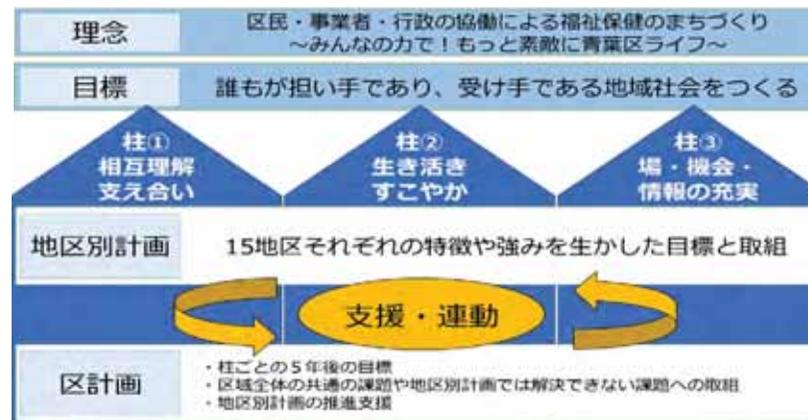
2 振り返り・意見から見てきた青葉区の共通テーマ

地区社会福祉協議会	民生委員・児童委員	主任児童委員
<ul style="list-style-type: none"> 地域の中で住民同士、顔の見える関係がつけられるようにしていきたい。 住民の困りごとを把握し、助け合いを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりづくりに向け、誰もが楽しめる場が増えることよい。 地域で見守りの目を増やしていくには、助け合い活動、情報共有や交流の場、挨拶や声かけ等の取組が増えることよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりづくりに向け、子どもも参加できる場が増えることよい。 地域のつながりづくりのためには、一人ひとりがあいさつや声かけを積極的に行うことよい。
PTA（小学校・中学校）	障害関係団体	中学生との意見交換
<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりづくりに向け、PTAでは子どもたちと住民が関われるイベントを企画することができるとよい。 学校、地域、家庭がつながり、子どもたちが見守られながら育つことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害がある人は、地域や社会とのつながりが強い傾向にある。 5年後には、障害に対する理解が広まるとよい。住民と交流し、障害について多くの人に知ってもらう機会が必要。 回覧板等で相談窓口（区役所等）を積極的に周知してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加して、地域の人と関わりたい。 地域清掃などで行っている方と交流し、楽しく話す機会を増やしてほしいと思う。 地域の活動の情報を分かりやすくして欲しい。
区計画プロジェクト	地区別推進会議等	策定委員会
<ul style="list-style-type: none"> 家族（世帯）全体で課題があり、複合的な支援が必要なお話が多い。 健康意識が高いので、それを生かした健康づくりを求めていきたい。 年齢を問わず力のある人が多く、一歩踏み出せば活躍ができる。 多様性のある活動の場があるとよい。 誰でも気軽に相談できる窓口や気軽に集まれる場が増えていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 顔見知りになることで、日頃の活動のお手伝いができたりいざという時に頼れる。 日頃から地域全体で災害時に備えた仕組みづくりをしておくことが必要。 担い手と受け手の垣根を取り、誰もが地域活動に参加していけるとよい。 学校や親と一緒に、子どもがこれからは地域とつながる経験をつくってほしい。 地域活動の情報発信の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い方のボランティア育成や元気なシニア世代をどう引き込むかを考える必要がある。 支援を受ける人も貢献できる機会があるとよい。 一人ではなくチームで支援していくことが必要。 詳細期から18歳までの子どもをみていく仕組みがあるとよい。 民間事業者も交えての地域づくりが進んでいる。さらに企業やNPO、学校と幅広く連携する仕組みをどうするかが課題。 情報が「届けたいターゲット」に届かないのが問題。届くような仕組みが必要。
<p>分野にまたがるキーワードが見えてきたことで、分野を超えた課題解決につなげるため、共通のテーマを「計画の柱」として掲げます。</p>		



3 計画の構成

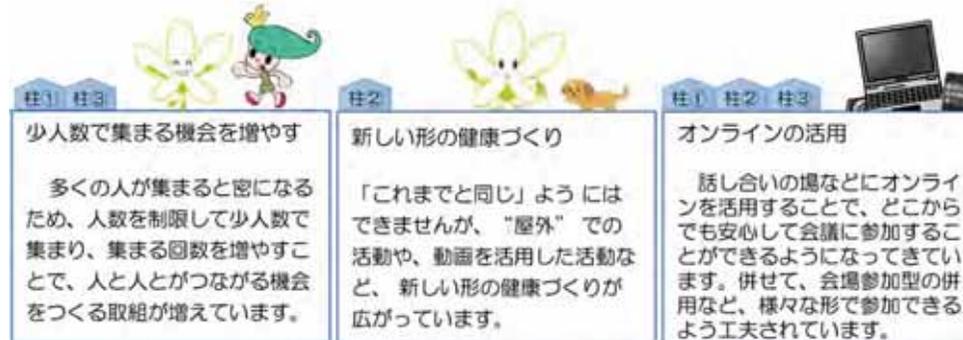
「振り返り・意見から見てきた共通テーマ」をふまえて、第4期計画では取組の推進に必要な「3つの柱」として掲げています。青葉区地域福祉保健計画は、区域全体に関わる取組内容である「区計画」と、地域それぞれの特性に合わせた「地区別計画」から構成されています。



4 第4期計画の概要（※裏面参照）

5 地域がつながり続けるための取組

「地域福祉保健計画」は、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域でのつながりと支え合いを大切にしてきました。新しい生活様式においても地域がつながりつづけられるように取り組んでいきます。



6 今後のスケジュール

第4期青葉区地域福祉保健計画は、令和3年度内の策定完了を目指し、策定委員会や各地区の推進会議等において、区計画・地区別計画の検討を進めていきます。

また、素案に対して区民の皆さんからいただいた意見も計画づくりに反映していきます。

令和3年 2月～	第4期地域福祉保健計画(素案) 意見募集実施
令和3年度内	第4期地域福祉保健計画 策定完了

	5年後に目指したい青葉区の姿	【取組】～地域の皆さんが取り組んでいくこと～	【取組】～区・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと～
柱① 相互理解・支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ◎隣近所で声を掛け合い、お互いに支え合っている ◎障害や認知症など、暮らしにくさを感じている人への理解が深まり、暮らしやすくなっている ◎安心して子育てができ、子どもも暮らしやすくなっている ◎日頃の防災・減災の取組などを通して、災害時でも助け合っている 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域主体で子どもや高齢者の見守りを広げよう。 ②一人ひとりの困り事を地域で一緒に考えよう。 ③多様性を理解し合える地域にしよう。 ④ちょっとしたことで、悩んだ時は抱え込まずに相談しよう。 ⑤防災訓練等を通じて、防災意識を高めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもから高齢者まであらゆる世代への見守りの輪を広げるための普及啓発や仕組みづくりを進めます。 ②身近な地域における高齢者・障害者の権利擁護を推進します。 ③認知症への理解を深め、本人の意思が尊重されるよう地域で支える取組を推進します。 ④地域での様々な障害への理解を深めます。 ⑤子どもの頃から福祉を身近に捉えられるような教育・機会を増やします。 ⑥生活困難に陥る前に支援機関の情報を提供できるよう、専門機関同士が連携・情報共有を行う仕組みづくりをします。 ⑦複合的な課題を抱えた個人・世帯への、多機関による包括的な支援を充実します。 ⑧児童虐待の予防及び早期対応のため、地域の理解をより深め、子どもや保護者を地域で見守る虐待防止の取組を進めます。 ⑨青少年が地域に見守られながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組を推進します。 ⑩妊娠・出産・育児・青少年期にわたる切れ目のない包括的な支援を充実します。 ⑪防災や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発します。 ⑫災害時に手助けが必要な人（災害時要援護者）の情報共有や避難支援の仕組みづくりを地域とともに進め、あわせて災害時要援護者等への啓発も行います。 ⑬医療関係団体・医療機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組みます。
柱② 生き活き・すこやか	<ul style="list-style-type: none"> ◎誰もが地域の中で自分らしく活躍している。 ◎身近なところで健康づくりの機会が増え、楽しみながら活動が続けられている。 ◎子どもから青少年、子育て世代が地域とつながっている。 ◎地域の活動を支える人が増え、次の世代に受け継がれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①元気なうちから地域とつながろう。 ②声をかけあい、地域で活動する仲間を増やそう。 ③健康づくりに関心を持ち、元気にすごせる生活習慣を心がけよう。 ④スポーツや地域活動などを通じて、仲間づくり・健康づくりを進めよう。 ⑤それぞれのできることをきっかけとして、誰もが活躍できる地域にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域活動の担い手と受け手がつながるようコーディネートします。 ②元気な高齢者が活躍できる場を広げていきます。 ③認知症や障害の有無にかかわらず、地域で活躍できる取組を支援します。 ④身近な地域の中で健康づくりができる機会を増やし、地域の交流を深めます。 ⑤健康寿命を延ばすために、医療関係団体、医療機関、教育機関等と連携し、生活習慣の見直しや重症化予防の取組をすすめます。 ⑥こころの健康づくりの普及を進めます。 ⑦学校等と連携し、子どもや保護者も地域活動に関心が持てるような取組を充実します。 ⑧子どもや子育て世代が地域とつながるように交流の場などを支援します。 ⑨区役所、区社協、地域ケアプラザのネットワークを強化し、地域の活動が継続できるように支援します。 ⑩地域活動へのきっかけづくりや人材育成を支援します。
柱③ 場・機会・情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◎多文化・多世代共生をめざし、地域で活動・交流できる場や機会、手段がある。 ◎子育て世代、障害児・者、高齢者、暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークができています。 ◎企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の連携ができています。 ◎必要な人に必要な情報が届き、活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①誰もが気軽に地域活動に参加できる方法をつくっていこう。 ②地域の関係団体が連携して、地域の課題解決を話し合おう。 ③地域の資源や様々な手法を活用して、近隣のつながりを持てる機会をつくっていこう。 ④多様な媒体や手段を取り入れた情報発信をしていこう。 ⑤自分の地域や活動を見つめなおしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域での居場所づくりや相談する機会を充実します。 ②障害児者、認知症、外国人等様々な方の交流を支援します。 ③地域の中でつながることができるような、交流の機会を増やします。 ④暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークを充実します。 ⑤地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるように支援します。 ⑥企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の情報共有やマッチングができるよう支援します。 ⑦在宅医療・介護の連携を推進します。 ⑧必要な人に必要な情報が適確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して情報提供します。 ⑨障害児者や外国人等、情報が得にくい人に配慮した情報提供を充実します。



配付資料1-2

青葉区議員団会議資料
令和3年2月5日
青葉区福祉保健課

第4期青葉区地域福祉保健計画

計画期間 令和3年度～7年度

(案)

青葉かがやく 生き生きプラン

素案



青葉区
マスコットキャラクター
なしかちゃん



青葉区社会福祉協議会
マスコットキャラクター
あおばちゃん

青葉かがやく生き生きプラン（第4期青葉区地域福祉保健計画）とは・・・

お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまちづくりを、
地域の皆さんと共に進める計画です。

令和3年2月

横浜市青葉区役所

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

目次

第1章 地域福祉保健計画について	1
第1節 地域福祉保健計画とは	1
第2節 計画の必要性	1
第3節 計画の構成	1
第4節 計画の期間	1
第5節 青葉区地域福祉保健計画の位置づけ	2
第6節 地域福祉活動計画との一体化	2
第2章 青葉区の状況について	3
第1節 統計データから見た青葉区	3
第3章 第4期計画について	8
第1節 計画策定に向けた流れ	8
第2節 計画の考え方	10
第3節 区計画	11
今後のスケジュール	19
参考資料	20
団体別アンケート及びグループインタビュー	20
地区別計画について	22
おわりに	32

第1章 地域福祉保健計画について

第1節 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざし、住民、事業者、公的機関（行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が地域の課題解決に協働して取り組み、「頼み、頼まれる」身近な支えあいの仕組みづくりを進めることを目的として、策定・推進する計画です。¹

青葉区では、「青葉区地域福祉保健計画（青葉かがやく生き生きプラン）」として、平成17年に策定した第1期計画から今日まで、さまざまな取組を地域の皆さんとともに進めてきました。

第2節 計画の必要性

近年、地域を取り巻く状況は大きく変化しています。少子高齢化、核家族化による家族形態の変化、人々の価値観や生活スタイルの多様化等により、住民同士のつながりが希薄になっていると感じる人も多くなってきています。また、「団塊の世代²」が75歳以上となる令和7年（2025年）には、青葉区においても、約4人に1人が高齢者であると予想されており、支援を必要とする人が増えていくと考えられます。

これからも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、声かけや見守り、ちょっとしたお手伝いなどができる、地域のつながりや支えあいの意識を強めていく必要があります。

- ★地域の皆さんがつながると・・・介護、子育て、健康づくり、災害時などいろいろな場面で力を発揮し、地域の課題を皆さんで解決していくことができます！
- ★地域福祉保健計画は・・・地域の皆さんが、「自分の住んでいる地域がこうなるといいな」ということを、みんなで一緒に考え、進めていく計画です！

第3節 計画の構成

青葉区地域福祉保健計画は、「区計画」及び「地区別計画」から構成されています。

「区計画」は、地区別計画の支援と、区域全体での課題・ニーズに応じた取組を合わせて推進しています。

「地区別計画」は、より身近な地域の特性に応じた課題に対応するため、15の地区連合町内会ごとに計画を策定・推進しています。

第4節 計画の期間

青葉かがやく生き生きプランは、これまでに第1期～第3期計画を策定してきました。第4期計画は、令和3年度から7年度までの5年間を対象とします。

¹平成12年に社会福祉法が改正され、総合的な地域福祉の推進が大きな柱として打ち出されました。この中で、「地域福祉計画」は地域住民や事業者等福祉保健活動を行うあらゆる人・団体を主人公に、意見を反映させながら策定し、推進することとされています。横浜市では、福祉と保健の取組を一体的に推進していくために、計画を「地域福祉保健計画」としました。

²昭和22年（1947年）～24年（1949年）生まれの世代

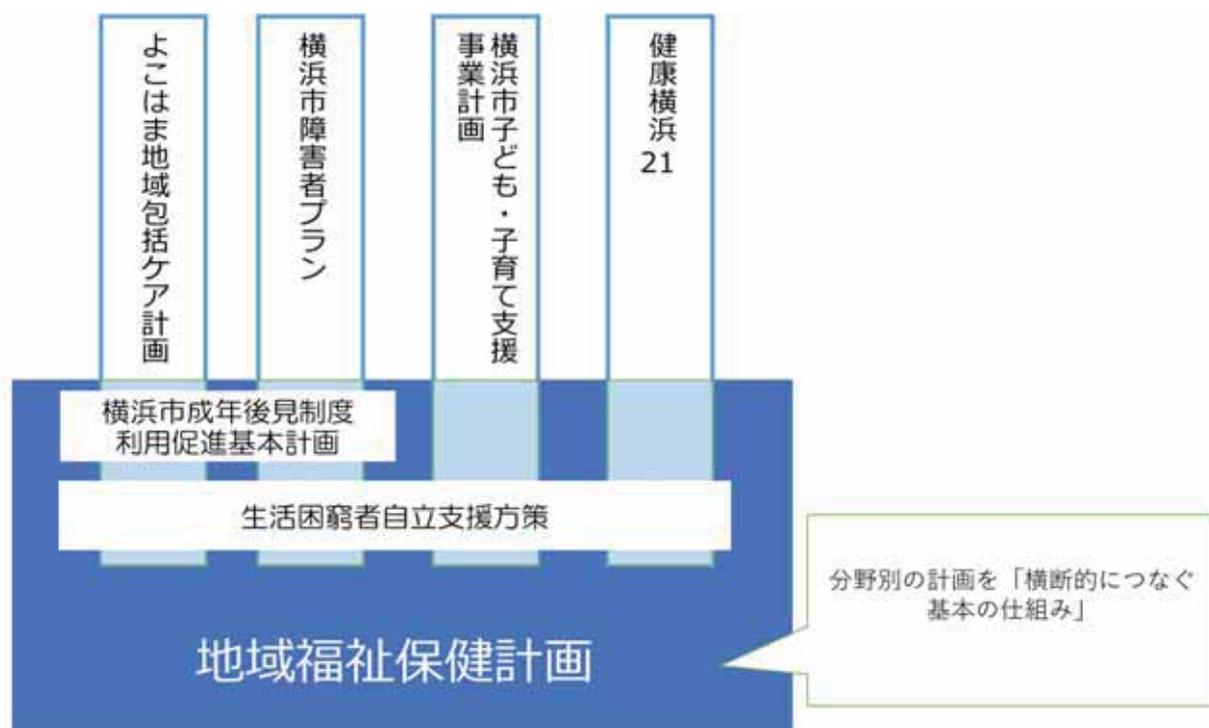
第4期青葉区地域福祉保健計画【素案】

第5節 青葉区地域福祉保健計画の位置づけ

社会福祉法の下、横浜市では区ごとの特性に応じた 18 区の区地域福祉保健計画と、それを支援する市計画「よこはま笑顔プラン」を策定し、推進しています。

また、横浜市には、高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画がありますが、地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を“地域”の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

青葉区では、市計画を踏まえ、区の特徴やニーズに基づいて、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現をめざし、青葉区地域福祉保健計画を策定・推進しています。



第6節 地域福祉活動計画との一体化

社会福祉協議会は、1980 年代後半から地域福祉活動を推進するために地域の皆さんや福祉施設・団体の人々と協働して、「地域福祉活動計画」を作成し、この計画に基づいて地域福祉活動を進めてきました。

青葉区社会福祉協議会（区社協）も、平成6年の分区と同時に設立され、平成8年から「青葉区地域福祉活動計画（青葉やまぶきプラン）」を掲げ活動してきました。

区役所の「青葉区地域福祉保健計画」と、区社協の「青葉区地域福祉活動計画」は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担し総合的に進めるため、第2期計画から一体的に策定・推進を行っています。

第2章 青葉区の状況について

第1節 統計データから見た青葉区

○ 青葉区の人口の推移・推計



※この将来人口推計は、平成27年国勢調査における人口を基準として推計していますので、実際の数値と異なる場合があります。

「横浜市将来人口推計（平成27年時点）」によると、青葉区の総人口は令和2年をピークに減少に転じるとされています。当初の予測に比べるとピークは後ろ倒しになっていますが、今後確実に減少していくとされています。また、高齢化率は令和7年には25.0%に達し、さらに超高齢社会(※)が進むと推計されています。

比較的若い区であるといわれる青葉区でも確実に高齢化は進んでおり、今後「団塊の世代」が80歳を迎える令和12年にはさらに高齢化は進むと推計されています。

※ 高齢化社会：高齢化率7%～、高齢社会：高齢化率14%～、超高齢社会：高齢化率21%～

○青葉区の年少人口と年少人口比率（15歳未満）【令和2年1月時点】

	15歳未満 (全体)		0歳～5歳		6歳～14歳	
	総数	比率	総数	比率	総数	比率
青葉区	39,400	12.7%	14,283	4.6%	25,117	8.1%
横浜市	446,873	11.9%	170,297	4.5%	276,576	7.4%

出典：横浜市統計ポータルサイト

令和2年1月時点で、青葉区の年少人口（15歳未満）は市内18区中2位、年少人口比率は3位となっており、青葉区は横浜市内でも子どもの多い区です。

しかし、年少人口は、平成27年の約4万3千人から令和2年の約3万9千人へと減少しており、青葉区においても子どもが減少し始めていることがわかります。

○青葉区の高齢者世帯の内訳と推移



平成 27 年の国勢調査によると青葉区における高齡者世帯（65 歳以上の高齡者のいる世帯）は約 3 万 8 千世帯で、青葉区の世帯数約 12 万世帯の約 30%を占めています。また、高齡単身世帯でみると、平成 17 年の 4,753 世帯から平成 27 年には 9,540 世帯となっており、10 年間で約 2 倍増加しています。
 今後の高齡化に伴い、高齡単身世帯はますます増加することが予想されます。

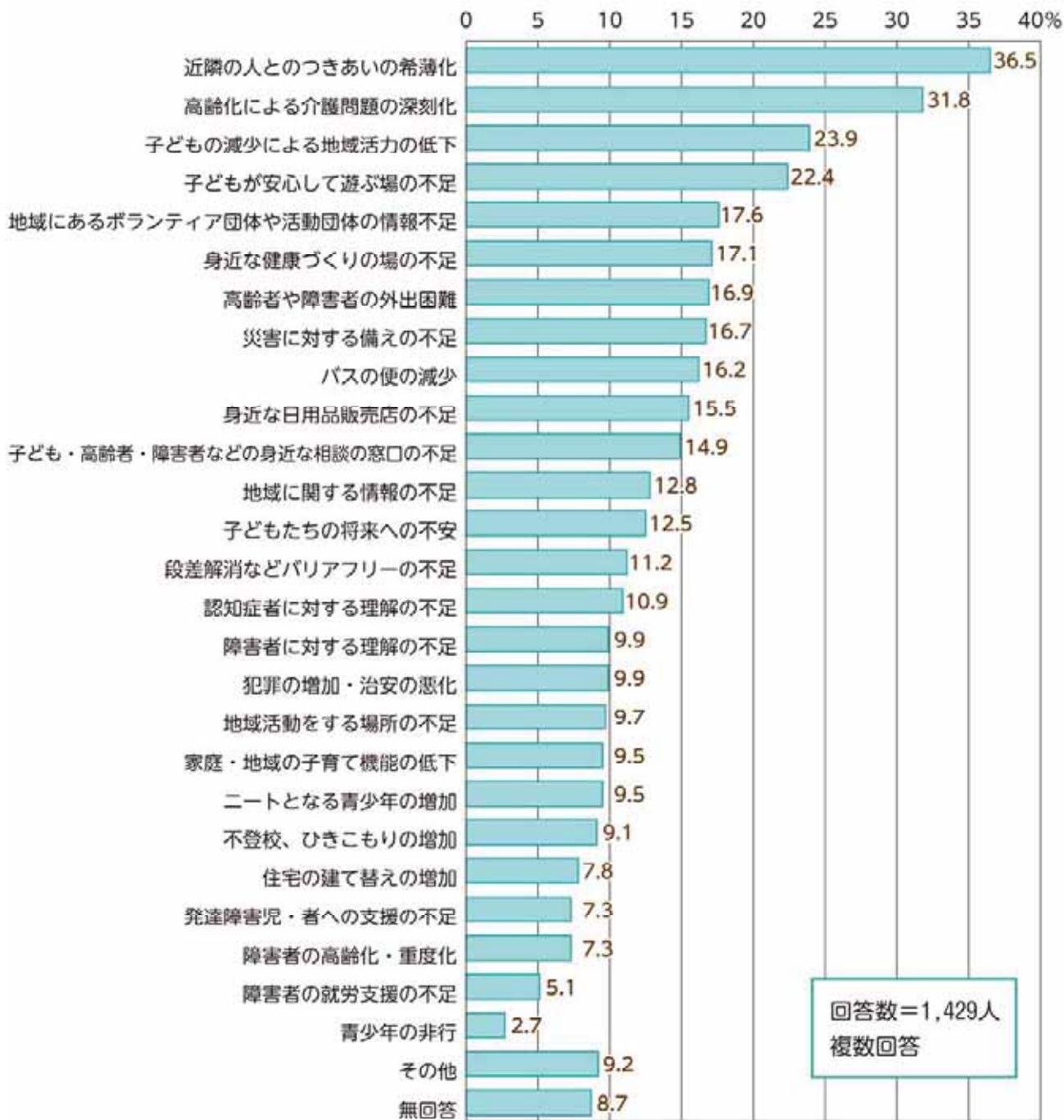
○青葉区の介護保険認定者数推移【各年3月末時点】



令和 2 年 3 月末時点で、青葉区において、何らかの疾病や心身の障害等により介護保険の要支援・要介護認定を受けている人は約 2 割増加し、11,405 人となっています。
 介護保険認定者数は増加傾向にあり、今後高齡者が増えることが予想される中で、少しでも長く健康に暮らせるよう、取り組んでいくことが必要です。

第2節 青葉区区民意識調査からみた青葉区

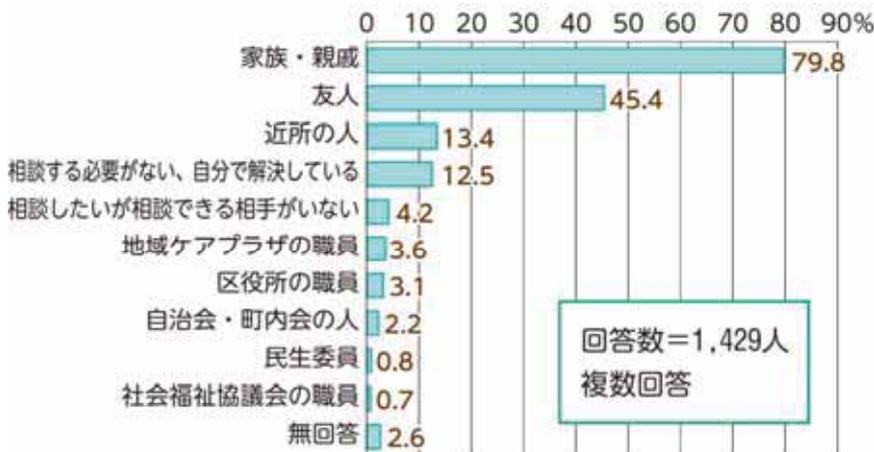
○「あなたの住んでいる地域には、現在どのような課題や問題があると思いますか」



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「近隣の人とのつきあいの希薄化」(36.5%)が最も多く、次いで「高齢化による介護問題の深刻化」(31.8%)、「子どもの減少による地域活力の低下」(23.9%)、「子どもが安心して遊ぶ場の不足」(22.4%)と続いています。

○「日常生活のうえで、困ったときに、誰に相談していますか」

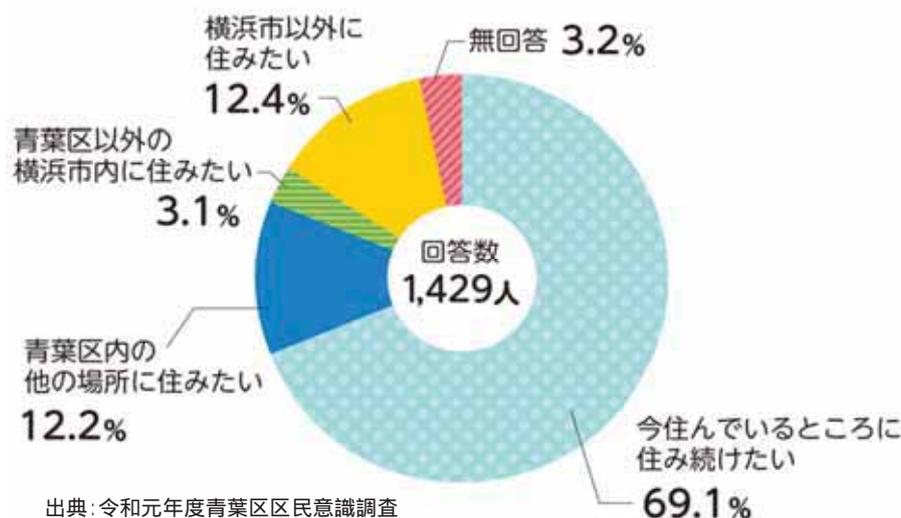


出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「家族・親戚」(79.8%)が8割と最も多く、次いで「友人」(45.4%)が半数近くを占めています。

以下、「近所の人」(13.4%)、「相談する必要がある、自分で解決している」(12.5%)、「相談したいが相談できる相手がいない」(4.2%)と続いています。

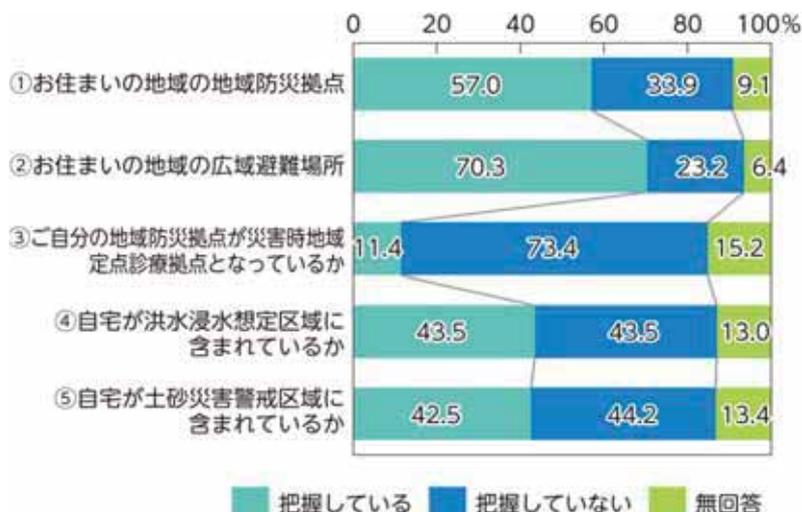
○「あなたは、今住んでいるところに住み続けたいと思いますか」



出典：令和元年度青葉区区民意識調査

「今住んでいるところに住み続けたい」(69.1%)が約7割と最も多く、「青葉区内の他の場所に住みたい」(12.2%)と合わせると、青葉区内に住み続けたい人が8割を超えています。

○「地震・風水害等の災害が起こった時のために、次の項目について把握していますか」



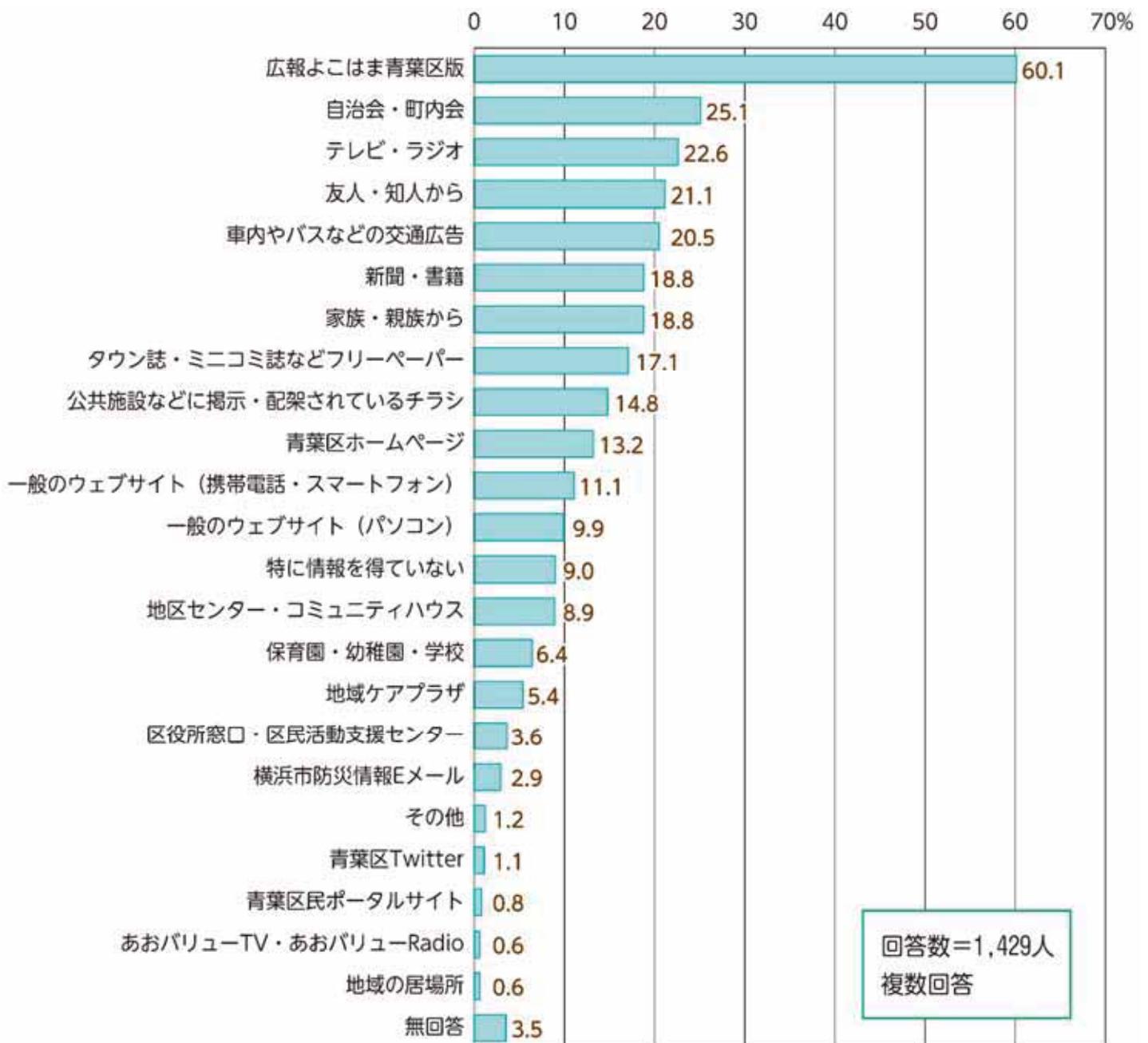
出典：令和元年度青葉区区民意識調査

①地域防災拠点について「把握している」は57.0%、「把握していない」が33.9%となっています。

②広域避難場所については「把握している」が70.3%、「把握していない」が23.2%となっています。

第4期青葉区地域福祉保健計画【素案】

○「あなたは、普段区内のさまざまな情報（区からのお知らせ、イベント、子育てに関する情報、災害の情報など）をどのように収集していますか」



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「広報よこはま青葉区版」(60.1%)が最も多く6割を占めています。次いで「自治会・町内会」(25.1%)、「テレビ・ラジオ」(22.6%)、「友人・知人」(21.1%)、「車内やバスなどの交通広告」(20.5%)と続いています。

第3章 第4期計画について

第1節 計画策定に向けた流れ

(1) 計画策定の流れ

第4期計画区計画策定にあたり、第3期計画の取組の振り返りを行うとともに、区民の皆さんのニーズを反映していくため、「区民意識調査」、15の地区連合町内会エリアで実施した「地区別推進会議」、「地区社会福祉協議会」における意見交換や、民生委員児童委員・主任児童委員・子育て支援者・PTA・障害当事者団体への「アンケート及びグループインタビュー」を実施しました。また、区内の中学生と意見交換を実施しました。

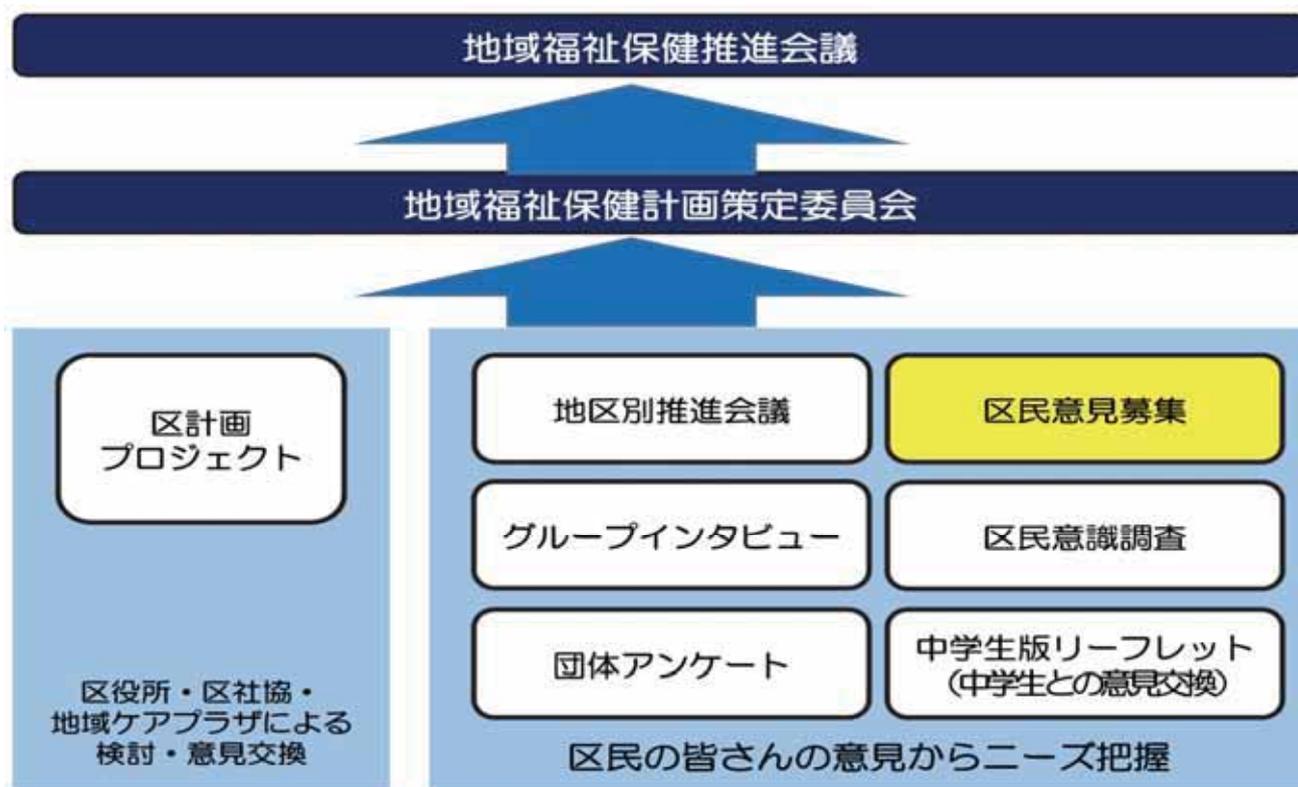
それらから出された課題・ニーズを基に、区役所・区社協・地域ケアプラザによる区計画プロジェクトにて検討し、区民や地域活動団体代表、学識経験者等で構成する「地域福祉保健計画策定委員会」にて、第3期計画の振り返りや第4期計画に向けた課題等の整理を行いました。

今後、区民意見募集の結果を踏まえ、「地域福祉保健計画策定委員会」、青葉区における福祉保健事業の推進について幅広く協議する場である「地域福祉保健推進会議」において、計画案を検討・確認し、第4期計画を策定します。

地区別計画については、地区ごとに地区別推進会議や地区社会福祉協議会が中心となり、第3期地区別計画の振り返りや、今後に向けた課題などについて、意見交換が行われています。

「自分たちの地域がこうなるといいな」「そのためにはこんな活動があったらいいな」という地域の皆さんの思いを盛り込み、第4期地区別計画を策定します。

計画策定の流れ



(2) 振り返り・意見から見えてきた青葉区の共通テーマ

第3期計画（平成28年度～令和2年度）の振り返り

<p>地区社会福祉協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で住民同士、顔の見える関係がつかれるようにしていきたい。 ・住民の困りごとを把握し、助け合いを進めていきたい。 	<p>民生委員・児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、誰もが集える場が増えるとよい。 ・地域で見守りの目を増やしていくには、助け合い活動、情報共有や交流の場、挨拶や声かけ等の取組が増えるとよい。 	<p>主任児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、子どもも参加できる場が増えるとよい。 ・地域のつながりづくりのためには、一人ひとりがいささつや声かけを積極的にできるとよい。
<p>PTA（小学校・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、PTAでは子どもたちと住民が関われるイベントを企画することができる。 ・学校、地域、家庭がつながり、子どもたちが見守られながら育つことが大事。 	<p>障害関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害がある人は、地域や社会とのつながりが薄い傾向にある。 ・5年後には、障害に対する理解が広まるとよい。住民と交流し、障害について多くの人に知ってもらう機会が必要。 ・回覧板等で相談窓口（区役所等）を積極的に周知してほしい。 	<p>中学生との意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加して、地域の人と関わりたい。 ・地域清掃などでいろいろな方と交流し、楽しく話す機会を増やすといいと思う。 ・地域の活動の情報を分かりやすくして欲しい。
<p>区計画プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族（世帯）全体で課題があり、複合的な支援が必要なことが多い。 ・健康意識が高いので、それを生かした健康づくりを進めていきたい。 ・年齢を問わず力のある人が多く、一歩踏み出せば活躍ができる。 ・多様性のある活動の場があるとよい。 ・誰でも気軽に相談できる窓口や気軽に集まれる場が増えていくとよい。 	<p>地区別推進会議等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りになることで、日頃の活動のお願いができたという時に頼れる。 ・日頃から地域全体で災害時に備えた仕組みづくりをしておくことが必要。 ・担い手と受け手の垣根を取り、誰もが地域活動に参加していけるといい。 ・学校や親と一緒に、子どもがこれからも地域とつながる経験をつくっていくとよい。 ・地域活動の情報発信の工夫が必要。 	<p>策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い方のボランティア育成や元気なシニア世代をどう引き込むかを考えていく必要がある。 ・支援を受ける人も貢献できる機会があるとよい。 ・一人ではなくチームで支援していくことが必要。 ・妊娠前から18歳までの子どもをみていく仕組みがあるとよい。 ・民間事業者も交えての地域づくりが進んでいる。さらに企業やNPO、学校と幅広く連携する仕組みをどうするかが課題。 ・情報が「届けたいターゲット」に届かないのが問題。届くような仕組みが必要。

分野にまたがるキーワードが見えてきたことで、分野を越えた課題解決につなげるため、共通のテーマを「計画の柱」として掲げます。

柱①
相互理解
支え合い

柱②
生き生き
すこやか

柱③
場・機会・情
報の充実

第2節 計画の考え方

(1) 計画の構成

第3期計画の振り返りを踏まえ、第4期計画（令和3年度～7年度）についても「理念・目標」は地域福祉保健計画のめざすべき基本姿勢であることから、今後も継承していきます。

第3期計画での「視点1～6」については整理を行い、前頁の「振り返り・意見から見えてきた共通テーマ」をふまえて、第4期計画では取組の推進に必要な「3つの柱」として掲げています。

青葉区地域福祉保健計画は、区域全体に関わる取組内容である「区計画」と、地域それぞれの特性に合わせた「地区別計画」から構成されています。

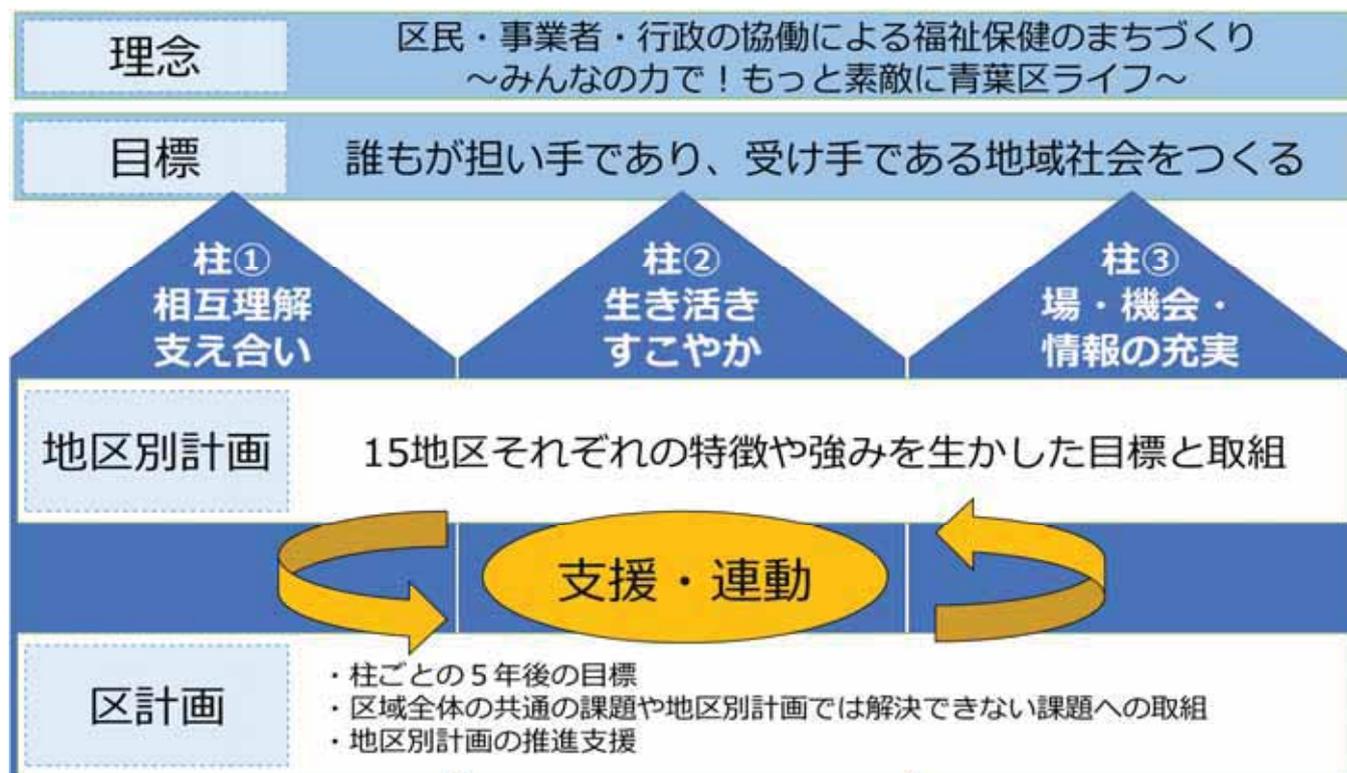
区計画

区域全体でのさまざまな課題やニーズに応じた取組と、地区別計画の推進支援を合わせて進めます。区域全体に関わる取組については「3つの柱」ごとに、5年間の計画期間でめざしたい青葉区の姿として位置づけています。また、地域住民、区役所、区社協、地域ケアプラザの取組内容をまとめています。

地区別計画

青葉区の多様な地域性を踏まえ、地域の特性や強みをいかし、地域課題にきめ細やかに対応していくため、15の地区連合町内会のエリアごとに地区別計画を策定し、地区それぞれの特徴や課題に応じた目標と取組をまとめています。また、「自分たちの地域がこうなるといいな」というまちの姿を「5年後にめざしたいまちの姿」として位置づけています。

第4期青葉区地域福祉保健計画「青葉かがやく生き生きプラン」【計画構成】



第3節 区計画

(1) 計画の推進体制

地域福祉保健推進会議

青葉区における福祉・保健・医療等の連携強化を図り、福祉保健サービスを充実させ円滑に実施することを目的に、区内の福祉・保健・医療等の各分野の代表者で構成される会議です。青葉区の福祉保健事業の推進について幅広く協議するとともに、地域福祉保健計画の推進・評価に関して意見交換を行っています。

地域福祉保健計画推進部会

計画の進捗管理及び振り返りの具体的な協議・検討の場として設置します。地域福祉保健計画推進部会は、実際に計画推進に携わっている各種団体・委嘱委員等の代表者で構成し、各地区別計画推進会議で進めている取組や課題となる事項等を共有するとともに、区域全体の取組や課題を検討します。また、計画推進の進捗状況について協議し、その内容を地域福祉保健推進会議へ報告します。

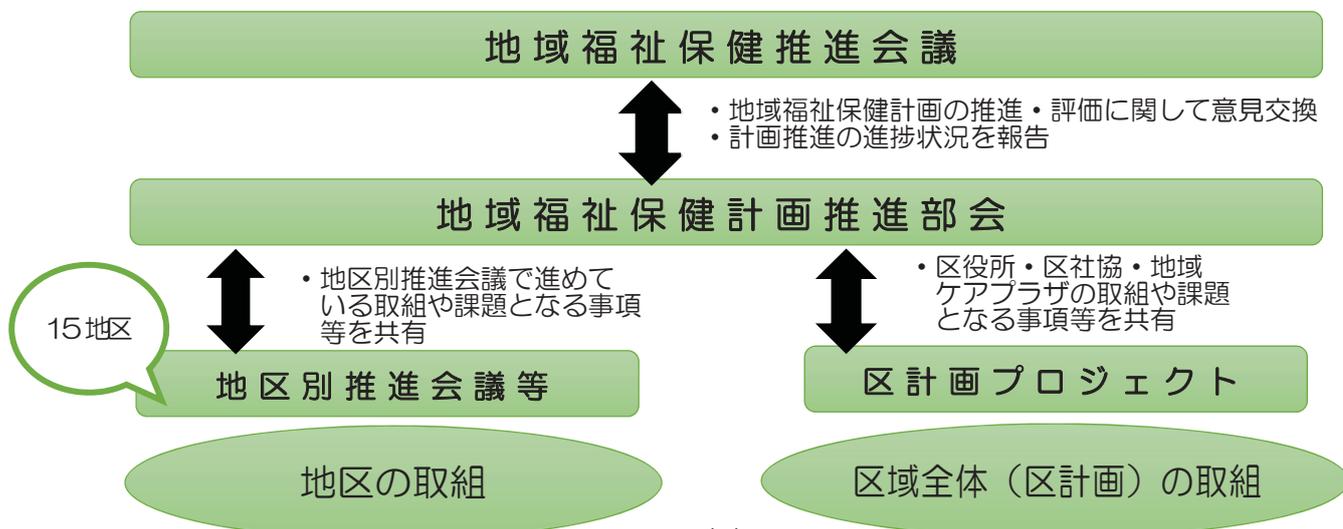
(2) 地域住民・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる計画の推進

青葉区地域福祉保健計画は、その“理念”である「区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり」のとおり、地域住民と区役所・区社協・地域ケアプラザが、それぞれの強みをいかしながら、協働して取り組む計画です。

計画の取組内容は、地域の皆さん一人ひとりが取り組めること、身近な地域での支えあいの中で取り組めること、そして事業者や公的機関（区役所・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が行う福祉保健サービスや公的支援であり、それらが適切に組み合わせることで、より大きな効果を生み出します。

それぞれの取組を進める人や団体等が青葉区地域福祉保健計画の主役であり、一人ひとりが主体的に取り組むことが、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現につながると考えます。

<区計画の推進体制イメージ>



(3)区計画

柱①

相互理解・支え合い

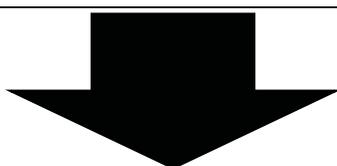


背景	住民同士の支え合い
----	-----------

区民意識調査では、例えば「急に具合が悪くなった時」に、「手助けしてほしい」と回答した人と「手助けできる」と回答した人の割合がほぼ同じという結果になりました。また、「ちょっとした買い物やゴミ出し」や「安否確認の声掛け」など、「手助けしてほしい」と回答した人より「手助けできる」と回答した人の方が全体的に多いことがわかりました。

地域でも、自分から助けを求めることが苦手な人が多いという声があります。助けを求める人と手を差し伸べる人がうまくつながる仕組みをつくり、地域の中で支え合う関係をつくっていくことが求められています。いざという時に備えて、日頃からつながりを持つことが大切です。

● 少し困った時に手助けできること、ご近所から手助けてしてほしいこと（抜粋）



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 隣近所で声を掛け合い、お互いに支え合っている
- ◎ 障害や認知症など、暮らしにくさを感じている人への理解が深まり、暮らしやすくなっている
- ◎ 安心して子育てができ、子どもも暮らしやすくなっている
- ◎ 日頃の防災・減災の取組などを通して、災害時でも助け合っている

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①地域主体で子どもや高齢者の見守りを広げよう。
- ②一人ひとりの困り事を地域で一緒に考えよう。
- ③多様性を理解し合える地域にしよう。
- ④ちょっとしたことでも、悩んだ時は抱え込まずに相談しよう。
- ⑤防災訓練等を通じて、防災意識を高めよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①子どもから高齢者まであらゆる世代への見守りの輪を広げるための普及啓発や仕組みづくりを進めます。
例) 青葉ふれあい見守り事業、ひとり暮らし高齢者地域で見守り推進事業
- ②身近な地域における高齢者・障害者の権利擁護を推進します。
例) 成年後見等の普及啓発と利用支援、青葉区あんしんセンターの運営
- ③認知症への理解を深め、本人の意思が尊重されるよう地域で支える取組を推進します。
例) 認知症サポーター養成講座、認知症高齢者安心ネットワーク
- ④地域での様々な障害への理解を深めます。
例) 発達障害に関する講座や支援者向け研修、障害者週間キャンペーン
- ⑤子どもの頃から福祉を身近に捉えられるような教育・機会を増やします。
例) 福祉教育(小中学生のボランティア体験・育成)
- ⑥生活困窮に陥る前に支援機関の情報を提供できるよう、専門機関同士が連携・情報共有を行う仕組みづくりをします。
例) お悩みあれこれガイドブックの活用、食料支援
- ⑦複合的な課題を抱えた個人・世帯への、多機関による包括的な支援を充実します。
例) いわゆる「ごみ屋敷」対策、ユースプラザ出張相談
- ⑧児童虐待の予防及び早期対応のため、地域の理解をより深め、子どもや保護者を地域で見守る虐待防止の取組を進めます。
例) 児童虐待防止啓発、児童虐待防止連絡会
- ⑨青少年が地域に見守られながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組を推進します。
例) 青少年の居場所づくり、寄り添い型学習支援事業、こども食堂の支援
- ⑩妊娠・出産・育児・青少年期にわたる切れ目のない包括的な支援を充実します。
例) 子育て世代包括支援センター、産後うつ対策
- ⑪防災や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発します。
例) 防災・減災に関する啓発イベント、防災マップやハザードマップの周知
- ⑫災害時に手助けが必要な人(災害時要援護者)の情報共有や避難支援の仕組みづくりを地域とともに進め、あわせて災害時要援護者等への啓発も行います。
例) 青葉災害ネットの登録推進、福祉避難所等の訓練
- ⑬医療関係団体・医療機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組みます。
例) 地域定点診療拠点の整備・開設訓練、災害医療検討委員会

柱②

生き活き・すこやか



背景 地域活動への参加と継続

区民意識調査では、4割を超える区民が「自分の興味・関心がある活動があれば」地域活動に参加または継続すると回答しています。また高齢の方がラジオ体操の声かけ役を担ったり、障害当事者が福祉教育の講義を行ったりするなど、様々な区民が年齢や障害に関わらず活動しています。きっかけや条件を整えば活動に参加し継続する区民が多いと考えられます。

地域等での活動に参加できる条件



視覚に障害のある方が体験を伝える福祉教育



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 誰もが地域の中で自分らしく活躍している。
- ◎ 身近なところで健康づくりの機会が増え、楽しみながら活動が続けられている。
- ◎ 子どもから青少年、子育て世代が地域とつながっている。
- ◎ 地域の活動を支える人が増え、次の世代に受け継がれている。

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①元気なうちから地域とつながろう。
- ②声をかけあい、地域で活動する仲間を増やそう。
- ③健康づくりに関心を持ち、元気にすごせる生活習慣を心がけよう。
- ④スポーツや地域活動などを通じて、仲間づくり・健康づくりを進めよう。
- ⑤それぞれのできることをきっかけとして、誰もが活躍できる地域にしよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①地域活動の担い手と受け手がつながるようコーディネートします。
例) 学生ボランティアの支援、ボランティアセンター
- ②元気な高齢者が活躍できる場を広げていきます。
例) 老人クラブ等の活動支援、地域活動リスト
- ③認知症や障害の有無にかかわらず、地域で活躍できる取組を支援します。
例) ふれあいマルシェ、自立支援協議会
- ④身近な地域の中で健康づくりができる機会を増やし、地域の交流を深めます。
例) ウォーキングマップ等の普及啓発、元気づくりステーション
- ⑤健康寿命を延ばすために、医療関係団体、医療機関、教育機関等と連携し、生活習慣の見直しや重症化予防の取組をすすめます。
例) 特定健診・がん検診等の普及、食に関する取組、オーラルフレイル等の普及啓発
- ⑥こころの健康づくりの普及を進めます。
例) ゲートキーパーの育成、自殺予防研修
- ⑦学校等と連携し、子どもや保護者も地域活動に関心が持てるような取組を充実します。
例) 学校・家庭・地域連携、青葉かがやく生き生きプラン 中学生版リーフレット
- ⑧子どもや子育て世代が地域とつながるように交流の場などを支援します。
例) 親子の居場所づくり、多世代交流事業
- ⑨区役所、区社協、地域ケアプラザのネットワークを強化し、地域の活動が継続できるように支援します。
例) 地区サポートチーム会議、地域ケア会議
- ⑩地域活動へのきっかけづくりや人材育成を支援します。
例) みらいづくり大学、区民活動支援センター、地域での起業支援



柱③ 場・機会・情報の充実

背景	交流する場や機会																		
<p>区民意識調査では、「自宅以外に知り合いや友人と活動を行う場所や機会がありますか」という問いに対し、46%の方が「ある」、48%の方が「ない」と回答しています。また、「地域の中で知り合いや仲間をつくりたい」と回答している方が31%いることから、仲間づくりの場や機会を求めている方が多いことがわかりました。</p> <p>地域の中で「交流する場」と「参加のきっかけ」をつくり、仲間づくりを進めていくことが求められています。また、新しい生活様式においても、人と人がつながる場や機会が一層重要となっています。</p>	<p>お住まいの地域の中で知り合いや仲間を作りしたいと思いますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="188 741 772 1232"> <p>自宅以外に知り合いや友人と活動を行う場所や機会がありますか</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>46.5%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>48.2%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>5.2%</td></tr> </table> <p>回答数 1,429人</p> </div> <div data-bbox="826 730 1458 1245"> <p>お住まいの地域の中で知り合いや仲間を作りしたいと思いますか。</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>既にいる</td><td>34.4%</td></tr> <tr><td>つくってみたいと思う</td><td>31.1%</td></tr> <tr><td>特につくりたいとは思わない</td><td>27.6%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>6.9%</td></tr> </table> <p>回答数 1,429人</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">出典：令和元年度 青葉区区民意識調査</p>	回答	割合	ある	46.5%	ない	48.2%	無回答	5.2%	回答	割合	既にいる	34.4%	つくってみたいと思う	31.1%	特につくりたいとは思わない	27.6%	無回答	6.9%
回答	割合																		
ある	46.5%																		
ない	48.2%																		
無回答	5.2%																		
回答	割合																		
既にいる	34.4%																		
つくってみたいと思う	31.1%																		
特につくりたいとは思わない	27.6%																		
無回答	6.9%																		



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 多文化・多世代共生をめざし、地域で活動・交流できる場や機会、手段がある。
- ◎ 子育て世代、障害児・者、高齢者、暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークができている。
- ◎ 企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の連携ができている。
- ◎ 必要な人に必要な情報が届き、活用されている。

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①誰もが気軽に地域活動に参加できる方法をつくっていこう。
- ②地域の関係団体が連携して、地域の課題解決を話し合おう。
- ③地域の資源や様々な手法を活用して、近隣のつながりを持てる機会をつくっていこう。
- ④多様な媒体や手段を取り入れた情報発信をしていこう。
- ⑤自分の地域や活動を見つめ直してみよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①地域での居場所づくりや相談する機会を充実します。
例) 親あるうちの講座、子育て支援相談会場
- ②障害児者、認知症、外国人等様々な方の交流を支援します。
例) ふれあい農園、国際交流ラウンジ、認知症カフェ
- ③地域の中でつながることができるような、交流の機会を増やします。
例) 施設利用団体懇談会、地域ケアプラザや自治会館等を活用したサロン
- ④暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークを充実します。
例) 子育て支援ネットワーク連絡会、セーフティーネット会議
- ⑤地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるように支援します。
例) 区民利用施設交流会、こどもの居場所づくり連絡会
- ⑥企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の情報共有やマッチングができるよう支援します。
例) プロボノ事業、事業における企業や学校等との連携
- ⑦在宅医療・介護の連携を推進します。
例) 医療介護連携ノート、意思決定支援研修
- ⑧必要な人に必要な情報が適確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して情報提供します。
例) 多様な媒体を活用した各種情報の提供、多様な機会を活用した周知
- ⑨障害児者や外国人等、情報が得にくい人に配慮した情報提供を充実します。
例) 多様な手段を活用したPR、青葉区移動情報センター

地域がつながり続けるための取組

「地域福祉保健計画」は、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域でのつながりと支え合いを大切にしてきました。

新しい生活様式においても地域がつながり続けられるよう取り組んでいきます。

柱①
相互理解・支え合い

柱③
場・機会・情報

「少人数で集まる機会を増やす」

多くの人が集まると密になるため、人数を制限して少人数で集まり、集まる回数を増やすことで、人と人がつながる機会をつくる取組が増えています。

一度に多くの人が集まることは難しくなりましたが、少人数で顔を合わせることで、感染症のリスクを減らすだけでなく、仲間意識が強くなるという面もあるようです。



柱②
生き活き・すこやか

「新しい形の健康づくり」

外出の機会や人とのつながりがなくなることは、私たちの健康に影響をもたらします。「これまでと同じ」ようにはできませんが、公園やスタンプラリーといった“屋外での活動や、動画やDVDを活用した活動など、新しい形の健康づくりが広がっています。



柱①
相互理解・支え合い

柱②
生き活き・すこやか

柱③
場・機会・情報

「オンラインの活用」

話し合いの場や研修会などで多くの人が集まると3密になるため、動画やテレビ会議などオンラインを活用することで、どこからでも安心して会議や研修に参加することができるようになってきています。

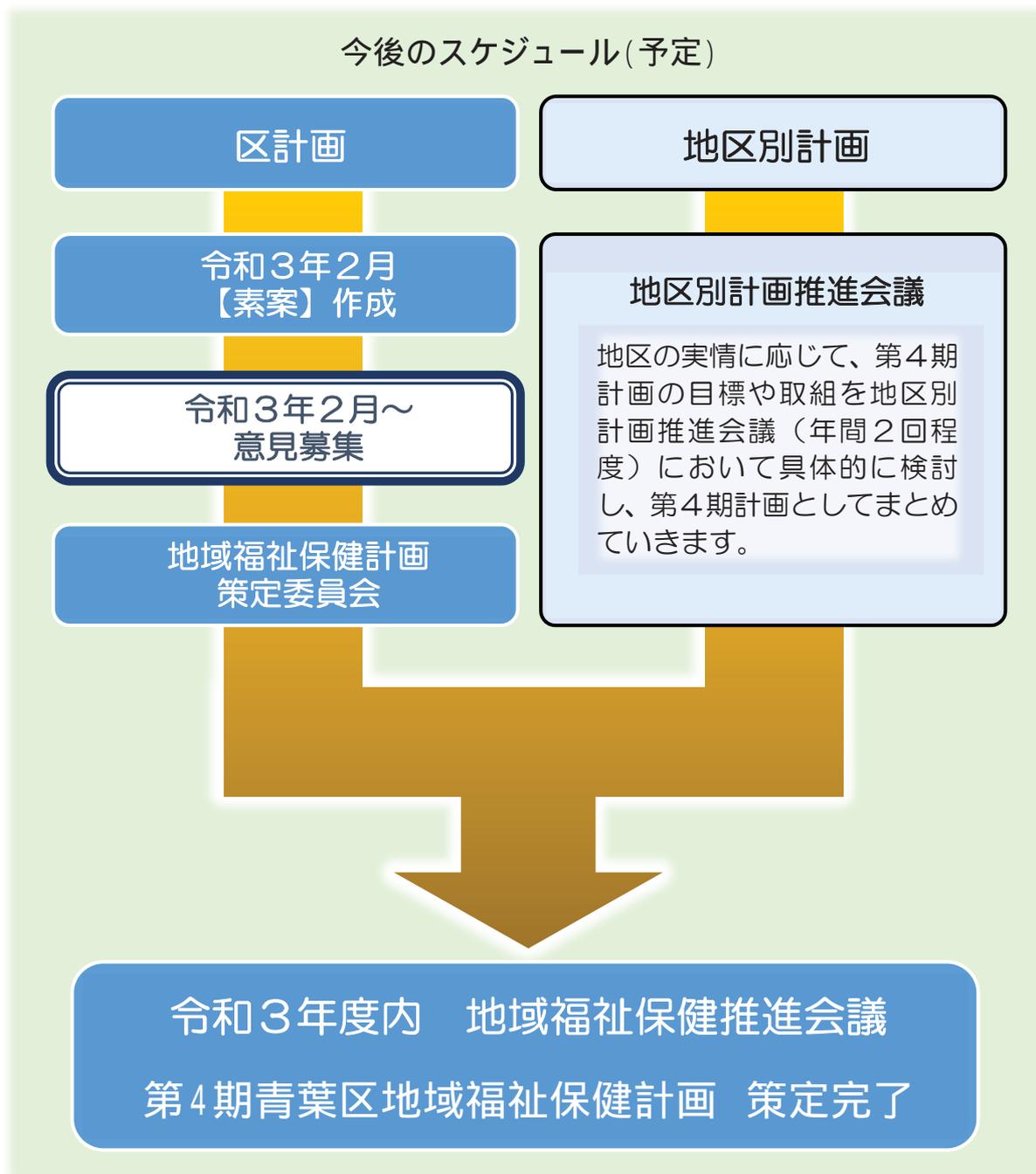
一方でオンラインの使用が難しい方に対しては、会場参加型の併用やパブリックビューイングの実施など、様々な形で参加できるよう工夫されています。



今後のスケジュール

第4期青葉区地域福祉保健計画は、令和3年度内の策定完了を目指し、策定委員会や各地区の推進会議等において、区計画・地区別計画の検討を進めていきます。

また、素案に対して区民の皆さんからいただいた意見も計画づくりに反映していきます。



参考資料

団体別アンケート及びグループインタビュー

○子育て支援者

- 回答者 「青葉区子育て支援ネットワーク連絡会」（令和元年7月実施）
- 主な意見
 - お互いを大切にする心をもつことが大切。
 - 防犯、防災に向け、一人ひとりが関心をもち、声をかけあう顔の見える関係づくりが必要。
 - 子育て世代が、地域の一員であるという意識を持てると良い。
 - 多世代が交流できる取組が充実すると良い
 - 産休育休中に地域との関わりがつかれるようなしかけが必要。

○主任児童委員

- 回答者 「青葉区主任児童委員連絡協議会」（令和元年9月実施）
- 主な意見
 - 子供達中心の取組を地域で発表する機会を作ると良い。
 - ボランティア、趣味、遊び、スポーツ等様々な活動が地域でたくさん活発に行われると良い。
 - 子どもが気軽に立ち寄れる居場所、何かをやってみようという人が誰でも集まれるサロンがあると良い。
 - 地域でのイベント(お祭りなど)に、誰でも気軽にやれる範囲内で一緒にボランティア活動ができるチャンスを増やしていきたい。
 - 顔の見える関係づくり、子育て支援、サポートをしている公的機関、民間事業者、住民、地域関係者が定期的に集まり、情報交換を行う場を設けられると良い。

○民生委員・児童委員

- 回答者 「青葉区民生委員児童委員連絡協議会」（令和元年9月実施）
- 主な意見
 - 気になる方を「気にかけています」というサインを発信する。まずは挨拶、声掛けから。
 - エリアを小さくして、交流会のような会を開いて、地域の人が親しくなっていけると良い。
 - 気になる方の状態を把握する。この方達が私たちに何をしてもらいたいかなど、気になる方にアンケートを取れると良い。
 - 地域で自治会町内会や地域ケアプラザ等の連携により見守り、情報交換の場があれば良い。
 - 自治会行事（まつり、防災訓練、掃除等）に気軽に参加できるよう、お声かけができると良い。
 - 地域の福祉を、地域ぐるみで一緒に考えられると良い。

OPTA

●回答者 「青葉区PTA連絡協議会」（令和元年9月実施）

●主な意見

- ・日頃の挨拶を大事にし、コミュニケーションをとるように心がけることが必要。
- ・地域に子どもも大人も全員が積極的に参加できる行事やイベントを増やすこと。そのためには、市やその他の団体等、力を借り、企画、運営される仕組みを考えることが必要。
- ・子どもが地域活動(自治会の行事、例えば夏祭り、防災訓練、公園清掃など)に保護者と一緒に参加することが必要。
- ・学校で地域のことについて学習することが必要。
- ・地域とのつながりを持つためには、その地域のことを良く知ることから。
- ・高齢者施設や保育施設へ子ども達が訪問したり、子ども達が参加したくなるイベントの企画、コミュニティハウスや公園などで親子で活動できるイベントの企画が必要。
- ・近所の人にあいさつをする。そのために、親が率先してあいさつをする、話をする、顔見知りの人を増やすことが必要。

○障害関係団体・施設

●回答者 「当事者団体部会・障害者施設連絡会」（令和元年9月、10月実施）

「聴覚障害者協会」（令和元年11月実施）

●主な意見

- ・交流できるイベントの機会を増やし、当事者や家族が積極的に地域に出て行く意識を持って、まずは顔見知りになることが必要。
- ・障害者が地域の中で高齢者や子供も一緒に楽しめるスポーツやカルチャーの場が定期的にあると良い。
- ・障害のある人は地域との関わりがあまりない場合もあり、災害時の不安を抱えている。
- ・障害のある人の相談窓口を増やし、相談先を地域の回覧板で知らせてもらえると良い。
- ・誰もが受け取れるよう、情報発信することが必要。
- ・障害体験の普及・見えない障害が、より多くの人々に分かるようになれば良い。
- ・区内の福祉施設見学会や、区内障害福祉専門の情報紙の発行やネットでの発信が必要。
- ・学校教育の中で「知る」「見る」「体験する」という機会を作り、早い時期から自分達の身近に障害のある方々が生活していることを知ってもらえると良い。
- ・地域で障害に関すること、特に成人に関してはほとんど話題にならないため、もっと多くの人に知ってもらうことが大切で、特に子どもたちに伝えていく必要がある。
- ・子どもたちの福祉体験、福祉教育の機会が増えると良い。
- ・地区社協等、地域に障害者の意見を伝えることができる場があると良い。
- ・区役所、警察、病院等には特に手話通訳者を配置したり、職員がタブレットで遠隔操作するなど、筆談以外の方法で相談できるようになると良い。

地区別計画について

○計画の推進体制

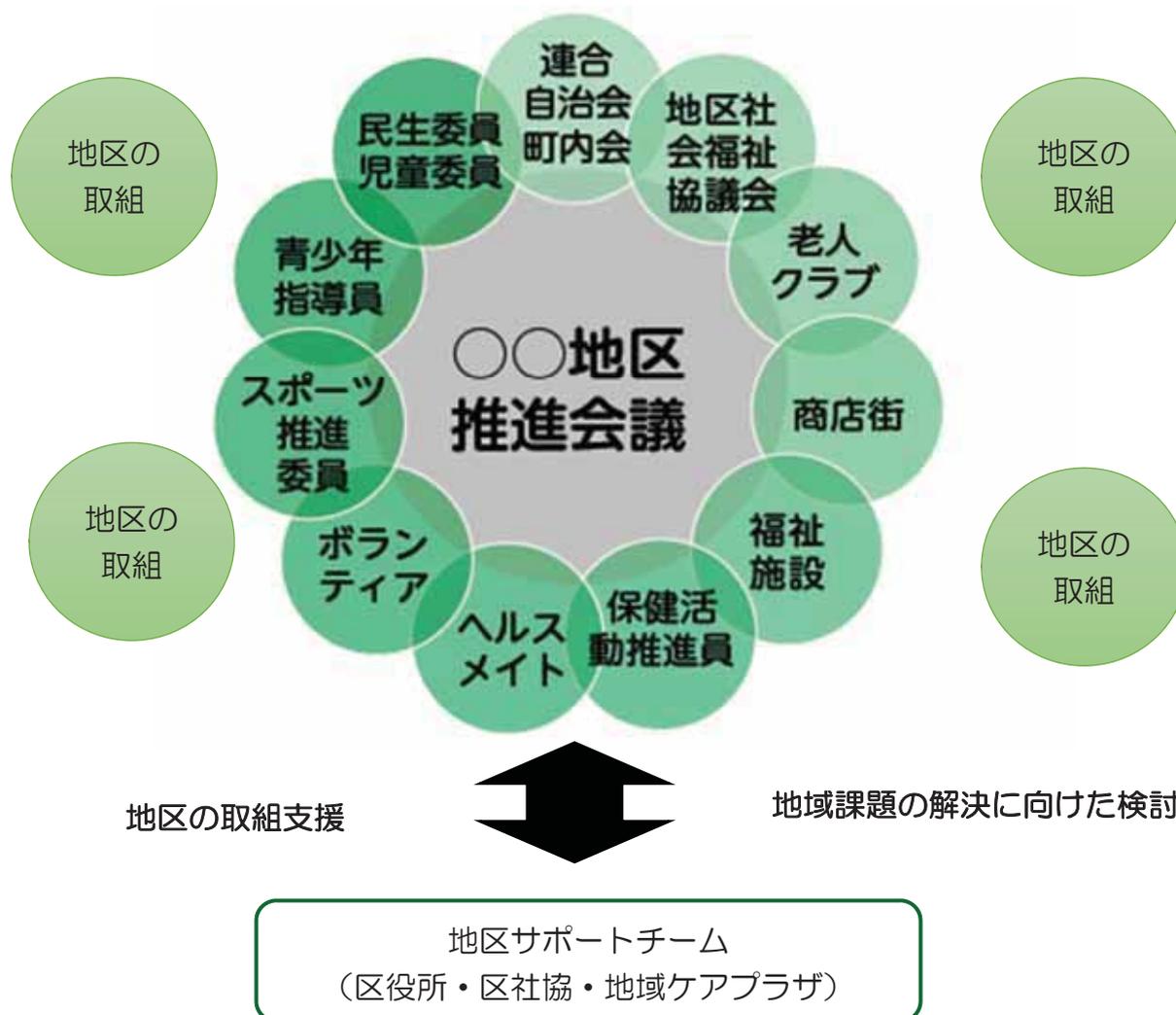
地区別計画推進会議

連合町内会、地区社会福祉協議会などの地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が主体となり、地区別計画を推進するための会議です。地区社会福祉協議会が中心となり推進している地区もあります。地域の福祉保健に関わる活動や課題の解決のために、話し合いや情報共有を行います。

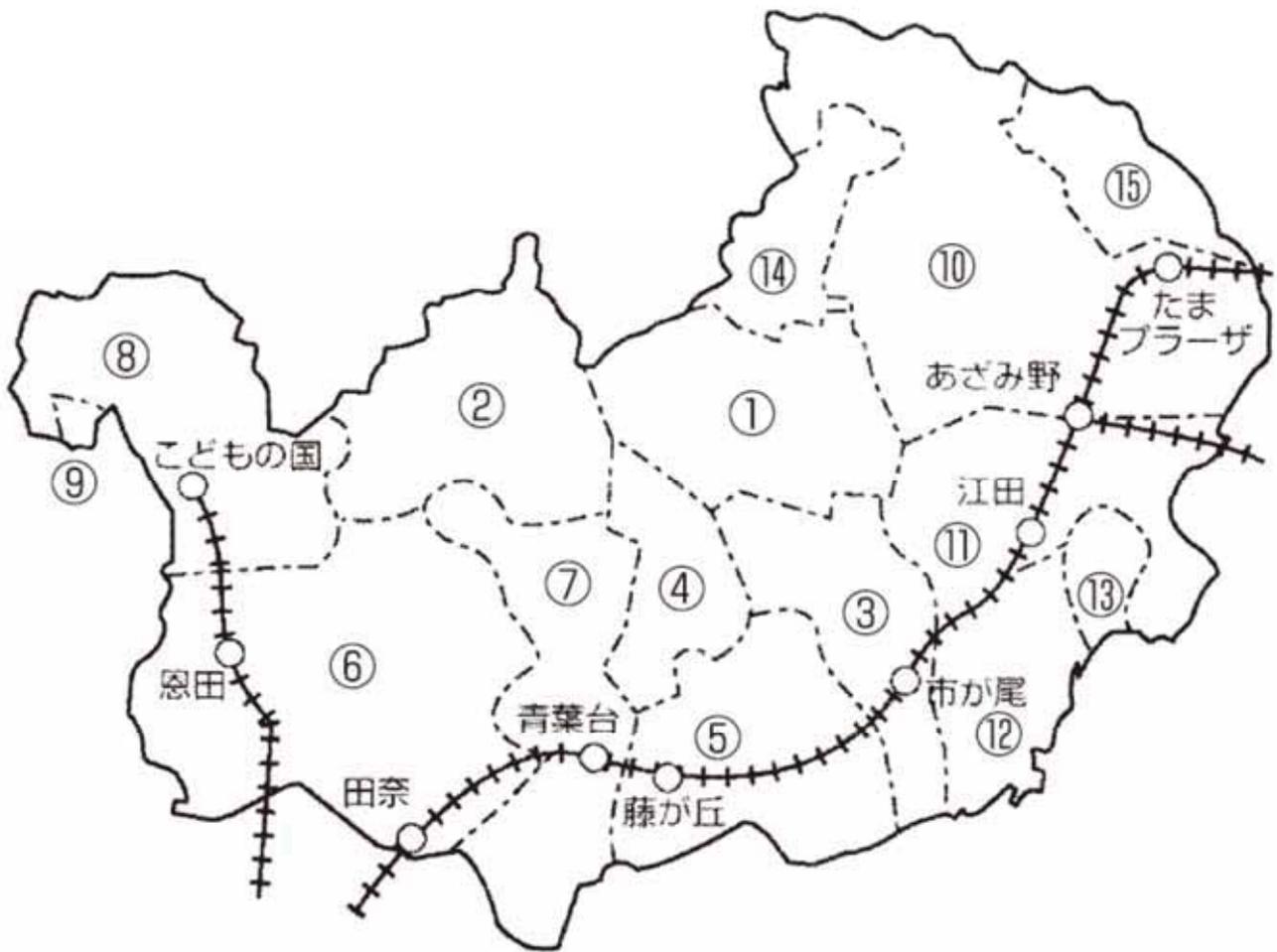
○区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる支援

青葉区は15地区ごとに、区役所・区社協・地域ケアプラザで「地区サポートチーム」を構成しています。地区サポートチームは、「地区サポートチーム会議」を定期的を開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や課題などを共有し、地域だけでは解決できない課題等に対し、地域のニーズに応じて地区別推進会議とともに検討し、解決に向けた支援をしています。

<地区別計画の推進体制イメージ>



○青葉区の連合自治会町内会エリア



- ① 中里地区
- ② 中里北部地区
- ③ 市ヶ尾地区
- ④ 上谷本地区
- ⑤ 谷本地区
- ⑥ 恩田地区
- ⑦ 青葉台地区
- ⑧ 奈良地区
- ⑨ 奈良北地区
- ⑩ 山内地区
- ⑪ 荻田地区
- ⑫ 荻田西地区
- ⑬ 新荻田地区
- ⑭ すずき野地区
- ⑮ 美しが丘地区

中里地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 学校や施設との連携をし、若い世代に地域のことを知ってもらい、さらに愛着を持ってもらいたい。
- 様々な方法で防災訓練が実施できており、防災意識の醸成とつながっている。
- まつりでは、以前は参加者だった学生がボランティアとして参加してくれた。参加者から担い手へのステップアップができてきた。
- 集える場があることで、住民同士の顔が見え理解し合える「お互い様」の形ができていて一方、自ら手を挙げられない人への支援が課題。
- 転入してきてすぐ声をかけたことで、親子が地域行事に参加してくれた。最初のきっかけが大切。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなで支えあい、“ふるさと”として愛されるまち

目標1 みんなが助け合い、協力できるコミュニティをつくろう！

目標2 地域力を高める人材を育てよう！

目標3 地域全体で高齢者を見守り、生き生きしているまち！

目標4 地域で子育てをし、安心して子どもを育てられるまち！

中里北部地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 行事を通じて担い手を発掘するとともに、どのように担い手になってもらうか。
- 地域に愛着を持ち、人とのつながりや交流をもってもらいたい。
- 声掛けやあいさつを通じた、見守りの意識があるので、子どもや大人もお互いにあいさつをしていける地域にしたい。
- 大学等との活動や情報交換等を通じて連携していけると良い。
- 地域の情報を発信し、地域のことに関心を持ってもらいたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

あらゆる世代の交流がさかんに行われ、さまざまな人の和が広がり、すべての住民が地域の一員と感ぜられるまち

目標1 高齢者が活躍できる生きがいのある地域にしよう！

目標2 若い世代を呼びこみ、地域に根づく環境をつくろう！

目標3 認知症を理解し、それぞれの立場で高齢者を見守ろう！

目標4 子どもが自分のまちをもっと愛せる地域にしよう！

市ケ尾地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域のことを次の世代に伝え、どのように受け継いでいくか。
- 防犯パトロール等を通じて、安全安心な地域にしたい。
- あいさつや声掛けを通じて、地域とつながりをもっていけたら。
- 閉じこもりがちなりタイア世代の方に、どのように地域活動に参加してもらうか。
- 地域のイベントを地域の広報紙に掲載するなど、情報発信していきたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなで地域のつながりを深め、イキイキと活動し、住み続けたいまち市ケ尾

- 目標1 活発な地域活動を活かし、もっとつながりのあるまちに！
- 目標2 異世代の交流を深め、誰もが楽しく活躍できる地域に！
- 目標3 いつ災害が起こっても、困らないまちに！
- 目標4 健康でいられるよう、食と運動ではつらつとした暮らしを！

上谷本地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- あらゆる世代にも参加できる事業、居場所の地域情報をPRし、知ってもらえると良い。
- 「行ってみよう！」と思ってもらえる活動や取組を作り上げることが大切。
- 障害理解に関する取組を始めた。今後、地域で障害児者にどのように寄り添っていけるか考えていけると良い。
- 元気なうちから地域とつながることが大切。お互いに見守り、支え合いましょう。
- 防災、減災意識を高め、災害時の体制を見直し、助け合える体制を強めよう。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「子どもからお年寄りまでいつまでも暮らし続けたいまち」
～お互いに見守り支えあうまち～

- 目標1 健康で安全・安心に住みやすいまちづくり！
- 目標2 地域のつながりで災害時に住民が助けあえる体制を強めよう！
- 目標3 異世代間の交流など、活発な地域活動を継続し、より多くの人の地域参加を目指そう！

谷本地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 誰もがつながりを持てるように、世代を超えて地域に溶け込んでもらう工夫が必要。
- 交流の機会や、見守りの輪が広がってきている。気になる情報をキャッチしたら誰かに届けることが大切。
- 自治会館がもっと活用されると良い。
- いざという時のために、あいさつなどの近所づきあいや、「大丈夫手ぬぐい」の活用などを進めていきたい。
- 障害者や認知症への理解を深める機会があると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

誰もが気軽にあいさつをかわせる仲のいいまち

目標1 地域の付き合いを一歩進めよう！

目標2 災害時に誰もが安全に避難できるようにしよう！

目標3 子どもから高齢者まで地域で見守っていこう！

恩田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域での活動を通じ世代を超えて交流し、コミュニケーションを深めたい。
- 定年後の男性や高齢者に、地域でもっと活躍してほしい。
- 掲示板やチラシのポスティング等を通じ、地域の活動をもっとPRしたい。
- 自治会、民生委員、PTAや老人クラブ等各団体のつながりをさらに深める。
- 伝統行事、郷土料理を伝承し、のどかな里山を次世代につなげていく。
- 防犯・防災対策や災害時対策を強化していくとともに、各防災拠点（5ヶ所）の連携し、災害時の助け合いを検討している。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「地域を愛する気持ち」を大切にし、お互いに支えあうまち

目標1 交流の輪を広げよう！

目標2 地域を支えるボランティア等の担い手を育てよう！

目標3 高齢者・障がい者が安心して暮らせるまちをつくろう！

目標4 地域ぐるみで子育てを支援しよう！

青葉台地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 福祉まつりでは、民生委員や施設の活動について、近隣住民の方々に広く周知できる良い機会となっている。
- 地域人材の発掘のため、気軽に参加しやすくなるよう、活動の内容が見える発信方法を考えていく。
- 風水害を想定した福祉施設での防災訓練をやっていきたい。
- こどもハロウィンまつりなど、子どもたちが主役のイベントを活性化できれば良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなが活躍し、ふれあいが深まるかがやくまち

- 目標1 顔の見える地域コミュニティをつくろう！
- 目標2 地域の人材を掘り起こし、まちづくりへの参加を促そう！
- 目標3 高齢者・障がい者を地域であたたかく見守っていこう！
- 目標4 すべての子ども達がいきいきと育つ環境をつくろう！

奈良地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 他の団体とも協力して奈良地区の歴史を学べるようなウォーキングや展示を実施する。
- 移動手段の確保については、地区内の施設や地域ケアプラザとも協力して検討していく。
- 地区社協から学校に働きかけて、地域と学校が一緒に取り組めることを検討していく。
- 通学の見守りなど、高齢者が活躍できる機会がつかれると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなにやさしく活力のあるまち

- 目標1 親しみの持てる地域コミュニティをつくろう！
- 目標2 高齢者の交流を活性化させよう！
- 目標3 「地域の子ども」という視点で、子どもの育ちを応援しよう！

奈良北地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 若い世代や転入者、高齢者、外国籍の方など、つながりが薄い方々とのつながりづくりができると良い。
- 世代や対象に合わせた広報の工夫により、多くの住民へ地域情報の発信ができると良い。
- 広報やイベントの開催などによる地域活動参加への「きっかけづくり」が必要。
- 担い手同士のつながりと活動の輪を広げ、新たな担い手を確保できると良い。
- 防災・減災を見据えたつながりづくりも必要。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなに優しく誇れる団地

いざという時、団結してお互いに助けあえる団地

目標1 子どもから高齢者まで、団地全体でお互い見守っていこう！

目標2 顔の見える関係を築き、団結力を深めよう！

目標3 活動者同士のつながりをさらに強めよう！

山内地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域行事への参加を通じて、地域の担い手を育成・発掘したい。
- 防災訓練などを通し、地域の防災意識や自助力を高めていきたい。
- 地域イベントの情報発信をし、参加者を増やして多世代交流をしていきたい。
- 地域で活躍できる場をつくり、地域とのつながりづくりを深めたい。
- 若い世代に伝統行事を継承していけると良い。
- 防犯パトロールは、顔見知りになることで安心感につながっているが、参加者が固定化しつつある。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

次世代が地域を好きになれるよう、地域のつながりを継承し「ここに住んで良かった」と思えるまち

気軽に集まれる場所ができ、みんなが喜んで活動できるまち

目標1 地域のつながりを大切にしたい安心安全のまちづくり

目標2 赤ちゃんから高齢者まで、気軽に地域活動に参加できるまちづくり

目標3 昔から続く助けあいの精神を継承していこう

荏田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 子どもから高齢者まで参加できるイベントや地域活動を実施する。
- 幅広い世代に情報が届くよう、地域の情報が一つにまとまった媒体を作成し、周知できたら良い。
- ポッチャなど、楽しみながら運動をし、地域の人々とのつながりを作る機会を増やしていければ。
- 小地域の身近なエリアで見守りができるようにしていきたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「荏田っていいな」って言えるまち

～子どもから高齢者まで、地域に愛着を持ち、安心して暮らせるまち～

目標1 イベントや地域活動をとおして、住民どうしのつながりをつくろう！

目標2 子どもから高齢者までスポーツ等をとおして、健康づくりに取り組むまちにしよう！

目標3 隣近所で支えあいの輪をつくろう！

荏田西地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- もちつき大会等、地域活動に参加することで、地域に知り合いが増え、挨拶・話をする機会が増えた。
- 公園でのラジオ体操等、「小さい単位」の活動が積み重なってつながっていけると良い。
- 学校で開催されるイベントを通じて人とつながった。小中学校との連携も必要。
- 「身近な場所で活動があり」、かつ「自分たちも主役」になれると良い。
- いかに地域に関心を持ってもらうか、ということが重要。担い手と参加者が一体になれると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

身近な活動が継続し、お互いが助けあう心を持てる、つながりのあるまち

目標1 地域で顔の見える関係づくりを進めよう！

目標2 子どもたちが安心していきいきと育つ環境を作ろう！

目標3 地域の活動の場を開拓していこう！

目標4 高齢者や障がい児・者が、自分らしく暮らせるまちにしよう！

新荏田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 行事の協力者に再度声をかけられる仕組みがあると良い。
- 「安否確認タオル」を配布し、発災時の助け合いや防災の意識を高めたい。
- 「あいさつ運動」をきっかけに顔見知りになり、隣近所の状況を普段から把握できるといい。
- 子どもたちが自由に参加できる、地域での取組があると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

お互いに声をかけあい、子どもから高齢者まで、みんなを大切にするまち

目標1 子どもたちのふるさとづくりをしよう！

目標2 より多くの人々が活動に楽しく参加するなかで、担い手を育てる！

目標3 向こう三軒両隣で高齢者を見守ろう！

目標4 災害時に備えた共助のネットワークをつくろう！

すすき野地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 第3期計画目標の推進を継承することとし、「福祉保健計画推進委員会」「福祉活動団体懇談会」「福祉討論会」を通じ、より地域課題の共有と解決策の検討を進めてきた。
- 「すすき野福祉保健計画 NEWS」「すすき野地区社協広報誌」の発行などにより、情報や人材不足の改善に取り組んでいる。
- 役員・担い手の負担軽減に向けた現在業務の見直し、改善・工夫を、団体毎に取り組んでいる。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

コミュニティとして成熟し地域価値が高く、和やかに安全で安心して住み続けられるまちとなっている

地区住民が地区づくりに協働し活動している

目標1 次世代の地域を担う推進者の輩出手段と育成の検討を進める

目標2 高齢化に伴う地区課題抽出・対応する組織作りの検討を進める

目標3 地区住民の交流活動を進める

目標4 地区全体に係わる課題とその対応策の検討を進める

美しが丘地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 各団体や地域と、「顔の見える関係づくり」ができれば良い。
- 小中学生から高齢者まで、地域活動に関わってもらいたい。
- 地域の団体や地域活動の情報を、どのように発信共有していくか。
- 子育て世代とつながりをつくり、多世代交流の場ができ、少しの工夫で家の近くで井戸端会議や交流できる場・仕掛けができると良い。
- 安否確認タスキを配布し、発災時の見守りの意識が高まっている。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

地域を大切に思う新しい仲間を増やし、地域の一人ひとりがいつまでも健康で自分らしく暮らせるまちをつくる

- 目標1 誰もが住みやすい安心安全のまちづくり！
- 目標2 欲しい情報が手に入り、いきいきと暮らせるまち！
- 目標3 地域ぐるみで子どもを育てよう！
- 目標4 高齢者・障がい者が安心して自分らしく暮らせるまち！

おわりに

この計画素案は、地区別計画推進会議、グループインタビュー、区民意識調査等でいただいた区民の皆さんからの意見と第4期青葉区地域福祉保健計画策定委員会、福祉保健推進会議での議論等に基づいてまとめました。ご参加・ご出席いただいた皆さんには厚く御礼申し上げます。

第4期青葉区地域福祉保健計画策定委員会 名簿 (敬称略・順不同)

氏名	所属団体
山川 英子 (※)	青葉区連合自治会長会
山本 俊夫	青葉区医師会
山本 昭二	青葉区歯科医師会
関水 康成	青葉区薬剤師会
徳江 傳三	青葉区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会分科会
小嶋 優	青葉区民生委員児童委員協議会
三浦 尚美	青葉区民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会
越井 太郎	青葉区保健活動推進員会
相原 照世	青葉区老人クラブ連合会
添田 好男	青葉区地域自立支援協議会
荒堀 洋子	青葉区PTA連絡協議会
高橋 充	青葉区スポーツ推進委員連絡協議会
御手洗 由美子	青葉区青少年指導員連絡協議会
三村 徳子	青葉区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会
西尾 敦史	愛知東邦大学 教授

(※) 策定委員長

皆さんからの
ご意見・ご提案
お待ちしております！



青葉区
マスコットキャラクター
なしかちゃん

✂ (キリトリ線)

「第4期青葉区地域福祉保健計画」素案への
ご意見・ご提案をお書きください

計画の内容について

地域の皆さんで取り組みそうなこと・心がけると良いこと

その他

(キリトリ線)
✂

ご協力ありがとうございました。

ご意見募集について

素案の内容に対する皆さんのご意見やご提案をお寄せください！

◆計画の内容について

- ・「地域でこんな活動があったらいいな」というご意見やアイデア。
- ・素案の中でこの部分が気になった（関心を持った）。
- ・既に「地域のつながりづくり」に向けてこういう取組を行っている。

◆地域の皆さんで取り組みそうなこと・心がけると良いこと

例) あいさつ・声かけ・ちょっとした買い物やゴミ出し等のお手伝い 等



- ・この素案に対するご意見やご提案がありましたら、左下のハガキにご記入の上、お送りください。ハガキの他、封書、FAX、Eメール、電子申請システムからでも結構です（様式は問いませんが、お住まいの町名、年齢をお書きください）
- ・いただいたご意見等は、今後の計画策定や地域福祉保健関連施策の参考にさせていただきます。ご意見を取りまとめたものを、青葉区地域福祉保健計画策定委員会へ報告するとともに、ホームページに公表します。
- ・個人情報適切に扱い、この「ご意見・ご提案」以外には使用しません。

ご意見等は、

令和3年4月16日（金）までに

お寄せください。

素案は、青葉区ホームページでもご覧いただけます。

https://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kurashi/fukushi_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/keikaku.html

青葉区地域福祉保健計画

検索

封書、FAX、Eメール等の送付先

横浜市青葉区役所福祉保健課事業企画担当

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町 31-4

TEL:045-978-2436 FAX:045-978-2419

Eメール:ao-jigyokikaku@city.yokohama.jp

電子申請システムもご利用いただけます。

こちらのQRコードを読み込むと

電子申請システムの入力フォームが表示されます。

QR
コード



料金受取人払郵便



郵便はがき

225 - 8790

<受取人>

横浜市青葉区市ケ尾町 31-4

青葉区役所 福祉保健課
事業企画担当 行

(キリトリ線)



お名前の記入は不要です

お住まいの町名 : ()

- 年代 : a 20歳未満 b 20~39歳
c 40~64歳 d 65~74歳
e 75歳以上

(キリトリ線)

都市計画道路恩田元石川線（鉄地区）について

～都市計画道路 恩田元石川線～

恩田元石川線は、平成4年度から「住民参加の道路づくり」として、住民アンケートや意見交換会を実施しながら計画案を取りまとめ、平成15年度に都市計画決定した、青葉区すみよし台から元石川町までを結ぶ延長約5,860mの都市計画道路です。

そのうち鉄地区は、平成28年3月に策定した「都市計画道路の優先整備路線」において、先行的に着手する区間に位置付けています。

この度、鉄地区の事業化に向けて、令和3年1月以降、周辺地域の測量を実施しています。引き続き、事業化に向けて、取り組んでいきます。

1. 恩田元石川線（鉄地区）の概要

地区名	鉄地区
区間	青葉区鉄町 から （鉄小学校 付近） 青葉区もみの木台 まで （横浜総合病院入口 付近）
延長	約1,200m
標準幅員	22m
車線数	2車線

2. 恩田元石川線（鉄地区）の取組

- (1) 令和2年度
 - ・現地測量（令和3年1月～）
- (2) 令和3年度
 - ・現地測量及び設計
 - ・事業認可取得に向けた手続き



都市計画道路恩田元石川線（鉄地区）位置図





青葉区 火災・救急状況

令和3年1月26日(火)現在

青葉区内 火災発生状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
件 数	2件	0件	2件	
火災種別	建 物	1件	0件	1件
	林 野	0件	0件	0件
	車 両	0件	0件	0件
	船 舶	0件	0件	0件
	航空機	0件	0件	0件
	その他	1件	0件	1件
損害	焼損床面積	10㎡	0㎡	10㎡
	死 者	0人	0人	0人
	焼死等	0人	0人	0人
	放火自殺	0人	0人	0人
	負 傷 者	0人	0人	0人

横浜市内 火災発生状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
件 数	51件	52件	△ 1件	
火災種別	建 物	37件	35件	2件
	林 野	0件	0件	0件
	車 両	3件	4件	△ 1件
	船 舶	1件	0件	1件
	航空機	0件	0件	0件
	その他	10件	13件	△ 3件
損害	焼損床面積	2,454㎡	596㎡	1,858㎡
	死 者	3人	2人	1人
	焼死等	3人	2人	1人
	放火自殺	0人	0人	0人
	負 傷 者	6人	9人	△ 3人

青葉区内 主な出火原因				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
1	たき火	1件	0件	1件
2		0件	0件	0件
3		0件	0件	0件
4		0件	0件	0件
5				

横浜市内 主な出火原因				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
1	放火(疑い含む)	8件	10件	△ 2件
2	たばこ	7件	7件	0件
3	こんろ	4件	6件	△ 2件
4	電灯・電話等の配線	3件	2件	1件
5	ストーブ	3件	3件	0件

青葉区内 救急状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
件 数	833件	926件	△ 93件	
急 病	560件	617件	△ 57件	
交通事故	35件	32件	3件	
一般負傷	165件	210件	△ 45件	
その他	73件	67件	6件	

横浜市内 救急状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
件 数	14,008件	16,122件	△ 2,114件	
急 病	9,827件	11,284件	△ 1,457件	
交通事故	573件	639件	△ 66件	
一般負傷	2,457件	2,881件	△ 424件	
その他	1,151件	1,318件	△ 167件	

行政区別 火災発生状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
合 計	51件	52件	△ 1件	
鶴見	6件	4件	2件	
神奈川	1件	1件	0件	
西	0件	4件	△ 4件	
中	11件	4件	7件	
南	2件	2件	0件	
港南	4件	5件	△ 1件	
保土ヶ谷	2件	1件	1件	
旭	1件	5件	△ 4件	
磯子	1件	1件	0件	
金沢	2件	7件	△ 5件	
港北	5件	7件	△ 2件	
緑	1件	2件	△ 1件	
青葉	2件	0件	2件	
都筑	2件	0件	2件	
戸塚	3件	5件	△ 2件	
栄	2件	2件	0件	
泉	4件	1件	3件	
瀬谷	2件	1件	1件	

行政区別 救急状況				
年 別	令和3年	令和2年	増△減	
鶴見	998件	1,132件	△ 134件	
神奈川	889件	994件	△ 105件	
西	497件	698件	△ 201件	
中	1,019件	1,287件	△ 268件	
南	939件	992件	△ 53件	
港南	812件	1,004件	△ 192件	
保土ヶ谷	837件	874件	△ 37件	
旭	923件	1,067件	△ 144件	
磯子	702件	807件	△ 105件	
金沢	757件	891件	△ 134件	
港北	1,082件	1,313件	△ 231件	
緑	635件	697件	△ 62件	
青葉	833件	926件	△ 93件	
都筑	536件	637件	△ 101件	
戸塚	1,052件	1,175件	△ 123件	
栄	448件	468件	△ 20件	
泉	586件	626件	△ 40件	
瀬谷	460件	529件	△ 69件	
市外	3件	5件	△ 2件	

※本年数値は速報のため、変更することがあります。

横浜市青葉消防署